

アニュアルレビュー 2022

Annual Review



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<https://www.ouj.ac.jp/>





【企画】2022年度放送大学学内広報委員会
委員長：情報／辰己 丈夫教授
副委員長：生活と福祉／戸ヶ里 泰典教授
心理と教育／波田野 茂幸准教授 社会と産業／松井 美樹教授
人間と文化／大橋 理枝教授 情報／大西 仁教授
自然と環境／加藤 和弘教授 和歌山学習センター／宗森 純所長
学習センター支援室／山本 慎一室長
オブザーバー：菊川 律子副学長
事務局：総務部広報課

【編集】2023年度放送大学学内広報委員会
委員長：生活と福祉／戸ヶ里 泰典教授
副委員長：人間と文化／大橋 理枝教授
生活と福祉／山田 知子教授 心理と教育／波田野 茂幸准教授
社会と産業／迫田 章義教授 情報／秋光 淳生准教授
自然と環境／橋本 健朗教授 茨城学習センター／小野寺 淳所長
学習センター支援室／笹田 慶太室長
オブザーバー：林 徹副学長
事務局：総務部広報課

CONTENTS

アニュアルレビュー2022
Annual Review

◆ 発刊に寄せて 岩永 雅也	3
◆ 特集(2022年度の主な出来事)	5
◆ 学生に向けた教育	7
◆ 社会に向けた教育	14
◆ 放送大学における研究	21
◆ 国際交流への取り組み	31
◆ 教員による社会貢献	33
◆ 学習センター・学生の活動	41
◆ データで見る放送大学	46



2022(令和4)年度放送大学学位記授与式

2023年3月25日(土)、2022(令和4)年度放送大学学位記授与式を、NHKホール(東京都渋谷区)において挙行了。2022年度の学部卒業生は6,198名、大学院修士課程修了生は258名、大学院博士後期課程修了生は9名であった。

卒業証書・学位記授与(教養学部卒業生総代井田智子さん、修士課程修了生総代高橋京子さん、博士後期課程修了生総代木村直文さんが壇上で受領)の後、岩永学長による式辞、築和生文部科学副大臣・松本剛明総務大臣による祝辞、須藤國夫放送大学同窓会連合会会長からの

祝辞に続き、教養学部卒業生総代大城敏雄さん、修士課程修了生総代山田久就さん、博士後期課程修了生総代堀井恵子さんによる謝辞があった。その後学長表彰が行われ、教養学部全コースを卒業した127名の「放送大学名誉学生」(代表下川菊雄さん)が表彰された。続いて、優れた教育活動を行った専任教員に与えられる「教育功績賞」を高橋秀明教授と森津太子教授が受賞した。

学位記授与式の模様は、後日BS231chにおいて複数回放送された。

逆境をチャンスに 全学で挑んだ 改革元年

放送大学長 岩永 雅也



「教学Vision2027」の1年目を終えて

2022年度は、放送大学の教育改革プラン「教学Vision2027」の起点となる年度であり、多方面において活発な年だったといえます。12個のアクションプランの中には目に見えて進んだものも多く、総じて手応えを感じられる1年でした。

中でも、最も成果を上げたのは「数理・データサイエンス・AI関連の教育強化」です。第1期のプランとして掲げていた「応用基礎レベル、応用レベルの231ch番組とオンライン講座の制作」は既に約20科目を制作。同時に掲げていた「リテラシーレベルの授業科目の制作」も、ほぼすべての制作を終えており、かなり順調な滑り出しといえるでしょう。また「ニーズに応じたメディア授業の拡充と多様化」というプランでも科目の拡充を進めています。こちらで増やしているのはオンライン授業の科目で、最終目標を100科目としている中、既に約80科目に到達しました。



教学Vision2027
リーフレット表紙

オンライン授業とは、スマートフォンでも視聴可能な科目で、小テストやレポート、ディスカッション等の課題も組み込まれている、いわば積み上げ式のプログラム学習です。場所や時間に縛られず必要な部分は何度でも視聴できる学習方法は、特に社会人など多忙な学生にも好評であり、今後、リカレント教育やリスキリング教育を推進するにあたり、より一層の拡充が必要となるものと思われます。

コロナ禍が加速させた“教育DX”

大きく前進したことといえばもう一つ、今年度の、それも1学期から、放送授業科目でIBT(Internet-Based Testing)を実施できたことに触れないわけにはいきません。

韓国・済州島で開催されたAAOU(アジア公開大学連合)第35回年次大会で、本学の中谷多哉子教授(ソフトウェア工学／要求工学)が「延べ20万人のための単位認定試験:IBTの試行」という論文を発表し、「最優秀プラクティス賞」金賞を受賞したことから、その成果が一定以上であったことがわかります。教学と事務スタッフの協働のたまものです。

ほとんどの学生がIBTによる受験に対応していただいたということは、特に素晴らしい点です。準備段階では、本学にはパソコン等に不慣れな学生も多く、そのため職員の多くがIBTの実施に不安を感じていたと思います。そこで、学習センターにおいて職員のサポートを受けた上で受験する方法をセーフティネット



として用意していましたが、実施してみると学習センターでの受験者は総受験者約5万人のうち800人程度で、私達の予測より学生の皆さんのポテンシャルが上回る喜ばしい結果となりました。さらにこの勢いで「デジタルデバйдの解消推進」にも乗り出そうと、2022年の後半から近藤副学長が中心となって、面接授業等におけるBYOD(Bring Your Own Device)をいかにして進めるかの検討に入っています。ただ、在学生が本学を選んだ理由のトップ3に「学費の安さ」が入る状況ですので、大きな経済的負担を強いることのないよう配慮が必要です。できるだけ負担を軽くするためにどのような方法があるのか、それも含めて現在検討中ですが、いずれにしてもBYODは、デジタルデバйдを解消するための最終着地点になるだろうと考えています。

来年度は大学の機能を 見直す1年に

2023年度は、教育の効率化にもいっそう力を入れたいと思っています。目標の1つが、“いかなるメディアを使って、いかなる教育をするのが効果的か”といった

調査研究を行うための機関「メディア教育研究開発センター(仮称)」の設置で、2023年度中の発足を目指しています。効率よく学べる授業のあり方を研究しながら、同時に、いくつかの授業番組を実験的に制作しコストダウンの方法も模索します。年々、経済状況や学習環境が変化し、高額な放送授業制作費の削減が急務となっていますので、費用対効果を考慮した番組制作を実験的に行える機関を新設し、今後に役立てていくつもりです。

また、「IR(Institutional Research)の組織的体系化による教育調査研究の質向上」も同様の目的で進めています。今までも、調査や数値化したさまざまなデータの分析は行ってきましたが、それを大学の運営・経営に十分反映させてきたとは言い難い状況です。「IR室」を設置してしっかりと組織化し、現状の見直しに数値的エビデンスを役立てる必要があります。大学を見つめ直すことは、“学生の声を聞くこと”、そして“社会のニーズに応えること”に通じるはずです。「教学Vision2027」の2年目も謙虚かつ大胆な改革を進めてまいります。

【特集】2022年度の主な出来事

データサイエンス教育への取り組み

オンライン教育センター長 中谷 多哉子

2020年に数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムから、データサイエンス教育におけるリテラシーレベルのモデルカリキュラムが公開された。続いて、2021年には応用基礎レベルのモデルカリキュラムが公開された。リテラシーレベルは、大学および高等専門学校の全ての卒業生50万人を対象とした教育である。応用基礎レベルは、上記の卒業生の半数を対象とするデータサイエンスの応用力を習得するための教育である(AI戦略2019※)。

放送大学におけるデータサイエンス教育も、これらのモデルカリキュラムに準拠させるために、2018年度から科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)で提供してきたデータサイエンスプランを再構成することにした。2021年度には、データサイエンスリテラシープラン、およびデータサイエンスアドバンスプランの認証を開始し、現在に到っている。放送大学では、2021年度に公開された二つのエキスパートプランについて、数理・データサイエンス・AI教育プログラムとしての認定を目指し、2022年に文部科学省へ申請を行った。数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の目的は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高めることである。たとえば数理・データサイエンス・AIに関する知識を適切に理解し活用する基礎的な能力(リテラシーレベル)や、課題を

解決するための実践的な能力(応用基礎レベル)を育成することが推奨されている。そこで、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程を、文部科学大臣が認定及び選定して奨励するに到った。本学では、二つのエキスパートプランが、数理・データサイエンス・AI教育プログラムとして認定された。図1は、放送大学の二つのエキスパートプランが、データサイエンスの教育プログラムとして認定されていることを表すために、文部科学省から使用することが認められたロゴマークである。

図1 データサイエンス教育として選定されたことを表すロゴマーク



(認定の有効期限:令和9年3月31日まで)

この認定は、令和8年度(2026年度)まで有効であるが、毎年、外部評価者による評価、履修者による評価、および放送大学における各プランの改善点を報告することになっている。放送大学におけるデータサイエンス関連プランの認証状況は、表1のとおりである。2022年度は、DSリテラシープランおよびDSアドバンスプラン、いずれも昨年度の1.8倍の学生が認証状を取得した。今後も、認証状の取得者を増やすべく、学生への啓蒙活動を続けていく予定である。

※AI戦略2019とは…内閣府によって発せられた教育改革方針である。デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍することを目指している。具体的には、大学・高専卒業生全員(50万人)に対してデータサイエンスのリテラシー教育を、高等学校の一部、高専・大学の50%の生徒・学生25万人を対象としてAI応用力の習得を求める応用基礎レベルの教育を行うとされている。

表1 データサイエンス関連プランの認証状発行状況

年度学期	2018	2019	2020	2021	2022
プラン名					
データサイエンス	10	25	66	45	30
DSリテラシー	—	—	—	70	125
DSアドバンス	—	—	—	44	80

リカレント・資格関連科目等の充実

副学長 菊川 律子

2022年度は、DXの推進と併せ、リカレントや資格関連科目等に大きな変化があった年度であった。新たな取り組みについて振り返ってみたい。

公認心理師学部段階対応カリキュラムの完成
放送大学において、国家資格である公認心理師の受験資格取得のための学部段階カリキュラムへの対応は2019年度から始まり、2022年度はすべての対応科目を開設し、初めての心理演習・心理実習を実施した。受講定員は30名であり、出願倍率は初年度12倍となった。

CBT(Computer Based Testing)や面接を経て選考された学生の方々が心理演習4日間、心理実習12日間に取り組んだ。コロナ下ではあったが、全員が単位を修得された。今後他大学の大学院修士課程で必要な単位を修得して修了するか、法の規定する認定施設での2年の実務経験を経て、公認心理師試験

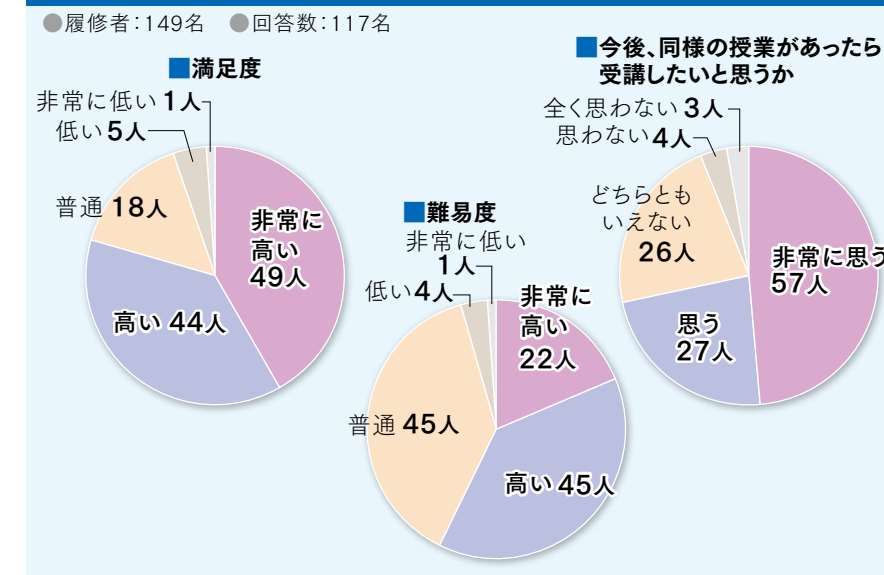
受験資格を得ることになる。地元での大学院進学を決めていらっしゃる方、暫くは時間を置きたいと考えていらっしゃる方など様々であるが、先生方からの対面での指導や学生同士の情報共有の中で、専門性をより深められたものと思われる。

ライブWeb授業「心理学実験(基礎)」の始まり

公認心理師のカリキュラムにおいても心理学実験等の単位が必要であるが、心理学を学んだ標準的な基礎資格として日本心理学会から認定される「認定心理士」の取得も希望者が多く、認定基準c領域の単位が必要である。このため以前から学習センターで開講される面接授業の心理学実験は人気が高く常に抽選が行われる状態であったが、コロナ下で面接授業の中止や定員数の削減が行われたことに伴い、抽選倍率が非常に高いものとなった。このような状況下、心理と教育コースの先生方のご尽力や学園として推進しているDXを踏まえ、新たな科目としてライブWeb授業「心理学実験(基礎)」が開講されることになった。第1学期は本部による2科目、第2学期は学習センター

も含め5科目が開講され好評を得ている。当該科目はオンデマンドとZoomによる同時双方向授業を組み合わせた2単位の科目で、受講者の満足度は非常に高かった。2023年度第1学期は15科目を予定しており、心理学実験の要望に応えるとともに、全国で今後拡充が予想されるライブWeb授業の先鞭となることが期待される。

ライブWeb授業「心理学実験(基礎)」受講者アンケート(2022年度第2学期)



IBTによる単位認定試験を導入して

副学長 隈部 正博

本学では2022年度第1学期から、Web通信指導のシステムを基に構築した単位認定試験のシステムを新たに導入した。これにより単位認定試験は、学生が自宅等からこの新しいシステムにアクセスして試験を受けるIBT(Internet-Based Testing)方式となった。一方で、自宅等に受験環境を持たない学生やパソコン操作が困難な学生については、学習センター等において職員のサポートの下で単位認定試験を受験できるようにした。2022年度第2学期には、9日間の試験期間で、学部大学院合わせて約5万1千人の学生が、約340科目、延べ試験科目数約18万の試験を、単位認定試験システムを用いて受験したことになる。また学習センターで受験した人数は約800人で、延べ受験科目数は約1700となり、学生数でいうと全体の2%弱の学生が、延べ科目数でいうと全体の1%弱の科目数を学習センターで受験したことになる。

IBTによる単位認定試験に先行して、2021年12月後半にシステム体験版を開し、学生がマニュアルを元に練習し、自力でWeb単位認定試験を受ける要領を身につけてもらえるようにした。さらに、それができない学生については、学習センターに来ていただき、講習を受ける機会を設けた。これらのサポート体制の結果、極めて多くの学生が自宅で受験できるようになったと思われる。試験期間中の土曜休日や特定の時間帯に学生のアクセスが集中する懸念があった。この対策として、サーバの増強、高速化、そして監視を行った。また仮想待合室を導入し、受験者のシステムへの流入調整を行った。これらの結果、初めての試験方式で不安は尽きなかったが、大きなトラブルもなく、安定した試験の運営が出来た。今回の新しい試験方式の導入により、殆どの学生は試験期間中であれば、都合

の良い場所と日時を選び試験が受けられたことになる。学習センターで単位認定試験が行われた頃は、社会人学生が試験のため休暇を取らなければならなかったことや、学習センターから離れた地域に住む学生は受験するために学習センターに泊まりがけで出かける必要があったことが学生の負担となっていた。これらも解消され、学生の利便性が大きく高まった。2022年度の試験は、Web単位認定試験システムのログインIDとパスワードによる本人認証と50分の時間制限を設けたことにより、2020年度から2021年度にかけて新型コロナウイルス感染症への緊急対策として実施した自宅受験の方式よりも厳格性を高めることができた。このWebによる試験の実施方法は、段階を踏んでさらに厳格性を高めていき、本学の新たな単位認定試験として確立させることを目標としている。

学生に向けた教育

放送授業（テレビ・ラジオによる授業）



放送授業は、BSテレビ(232ch)またはBSラジオ(531ch)で受ける授業である。科目によってテレビ科目とラジオ科目に分かれており、BS放送やケーブルテレビなどを通じて、全国で放送されている。なお、学生専用サイト(システムWAKABA)では、全ての科目をインターネット上で配信しており、時間と場所を選ばずにパソコンやスマートフォンなどで視聴可能である。1コマ45分の授業が15コマで構成された2単位科目である。2022年度は、学部292科目、大学院56科目の合計348科目を開設している。制作された放送授業は、原則として4年間(毎年2学期、合計8学期間)開講し放送するため、全開設科目のおよそ4分の1ずつが毎年入れ替わる。2022年度の新規開設科目は、学部51科目(テレビ32科目、ラジオ19科目)、大学院11科目(テレビ2科目、ラジオ9科目)の合計62科目である。

2022年度 開設科目数			
	テレビ科目	ラジオ科目	計
学 部	169	123	292
大学院	5	51	56
計	174	174	348

2022年度新規開設科目(基盤科目)		
▶基盤科目	科目名	メディア
	運動と健康('22)	テレビ
	自然科学はじめの一歩('22)	テレビ
	日本語アカデミックライティング('22)	テレビ*
	情報学へのとびら('22)	テレビ
	地理空間情報の基礎と活用('22)	テレビ

▶基盤科目(外国語)		
	グローバル時代の英語('22)	ラジオ
	初歩のロシア語('22)	ラジオ

2022年度新規開設科目(コース科目)		
▶生活と福祉		
導入科目	社会福祉－新しい地平を拓く('22)	テレビ
	人体の構造と機能('22)	テレビ
	暮らしに活かす不動産学('22)	テレビ
専門科目	看護学概説('22)	ラジオ
	社会福祉実践とは何か('22)	ラジオ
	地域福祉の課題と展望('22)	テレビ

▶心理と教育		
専門科目	学校リスク論('22)	テレビ
	社会教育経営実践論('22)	テレビ*
	生涯学習支援の理論と実践('22)	テレビ*

	神経・生理心理学('22)	テレビ
	日本の教職論('22)	テレビ*
	幼児教育の指導法('22)	ラジオ
▶社会と産業		
導入科目	政治学入門('22)	ラジオ
専門科目	現代の内部監査('22)	テレビ
	管理会計('22)	ラジオ
	行政法('22)	ラジオ
	現代の国際政治('22)	テレビ
	市民生活と裁判('22)	テレビ
	簿記入門('22)	ラジオ
	著作権法('22)	ラジオ
	フードシステムと日本農業('22)	ラジオ
	民法('22)	ラジオ
総合科目	海からみた産業と日本('22)	ラジオ
	空間と政治('22)	テレビ

▶人間と文化		
導入科目	人文地理学からみる世界('22)	テレビ
	西洋哲学の根源('22)	ラジオ
	世界文学への招待('22)	テレビ
	歴史のなかの人間('22)	テレビ
専門科目	近現代ヨーロッパの歴史('22)	テレビ
	原初から／への思索('22)	ラジオ
	博物館教育論('22)	ラジオ

▶情報		
導入科目	日常生活のデジタルメディア('22)	テレビ
専門科目	教育のためのICT活用('22)	テレビ
	情報セキュリティ概論('22)	テレビ
	数値の処理と数値解析('22)	ラジオ
	メディア論('22)	テレビ

▶自然と環境		
導入科目	現代を生きるための化学('22)	ラジオ
	初歩からの物理('22)	テレビ
	入門微分積分('22)	テレビ
専門科目	数値の処理と数値解析('22)	ラジオ

▶資格取得等に資する科目		
夏季集中型科目 司書教諭資格取得に資する科目		
	学習指導と学校図書館('22)	テレビ
	学校図書館メディアの構成('22)	テレビ*
	情報メディアの活用('22)	テレビ
看護師資格取得に資する科目		
	小児看護学('22)	テレビ

大学院 2022年度新規開設科目		
生活健康科学	精神医学特論('22)	ラジオ
	福祉政策と人権('22)	ラジオ
人間発達科学	教育老年学('22)	ラジオ
臨床心理学	保健医療心理学特論('22)	テレビ
社会経営科学	経済政策('22)	ラジオ
	現実と向き合う政治理論('22)	ラジオ
	公共政策('22)	ラジオ
	人的資源管理('22)	ラジオ
人文学	異文化との出会い('22)	ラジオ
	日本文化と思想の展開－内と外と('22)	ラジオ
情報学	情報デザイン特論('22)	テレビ*

(注)「テレビ*」は放送授業ですが、テレビによる放送は行わず、インターネット配信限定で視聴する科目です。

面接授業（スクーリング）

面接授業（スクーリング）は、学習センターなどで教員から直接指導を受ける授業である。また、学友と共に学んだり、教員と交流を深めたりできる貴重な機会である。全国50カ所の学習センターと、全国7カ所のサテライトスペースで、年間約3,000クラスが開講されている。

面接授業はすべて、1科目1単位で、1時間30分の授業7回、45分の授業1回、計8回で構成されている。また、教室の中だけでなく、学習センター以外の場所で実習等を行う授業も開講している。2022年度は、2,732科目(1学期1,335科目、2学期1,397科目)を開講した。



総合科目

「武蔵国」の民俗とくらし

講 師	吉村 風(国立国会図書館司書) 中里 亮平(長野大学非常勤講師) 前野 清太朗(上智大学特任助教)
開講日	2022年5月21日(土)、22日(日)

【授業テーマ】

- 第1回 武蔵野台地と段丘面の成り立ち(講義)
- 第2回 立川段丘の民俗・くらしと土地利用(講義)
- 第3回 水利用の変化と民俗－小平巡検(1)
- 第4回 水利用の変化と民俗－小平巡検(2)
- 第5回 立川面のくらしと武蔵国－府中巡検(1)
- 第6回 立川面のくらしと武蔵国－府中巡検(2)
- 第7回 立川面のくらしと武蔵国－府中巡検(3)
- 第8回 立川段丘のくらしと民俗

*第3～4回は小平駅周辺、および第5～8回は府中周辺で行いました。

東京都府中市は旧武蔵国府が置かれた地域です。一方、小平市は江戸時代まで開発が進んでいませんでした。この講義では、人々が地形をどのような条件で選び、どのように利用して暮らしを成り立たせてきたのかを、三つの視点から見ていきました。一つ目は地形です。府中市は多摩川に近く、「ハケ(府中崖線)」から水を得やすい地域であり、地形を利用して古代から発展してきました。小平は武蔵野台地の中央に位置し、水が得にくいため玉川上水が開発されるまで「荒野の武蔵野台地」とも呼べる景観でした。二つ目は街並みと人々のくらしです。府中が甲州街道の宿場町の景観を残しているのに対し、小平では大都市江戸の後背地として計画的に開拓された短冊状地割の景観が残っています。三つ目は祭礼と民俗です。二つの地域は多摩のマチとムラという対照的な関係ですが、一方で、大国魂神社の祭礼でつながっており「江戸」とは異なる文化圏にあります。本講義ではこれら視点を、地形や歴史資料などから見ていくとともに、実際に歩くことで体感してもらいました。





総合科目

灘五郷日本酒学

講師

高橋 俊成(菊正宗酒造株式会社生産部・部長)
小川 義明(辰馬本家酒造株式会社製造本部・本部長)
榎本 純(日本盛株式会社商品開発室・室員)
森 伸夫(白鶴酒造株式会社マーケティング本部・本部長)
森脇 政博(沢の鶴株式会社製造部醸造課・課長兼杜氏代行)
坊垣 隆之(大関株式会社総合研究所製品技術開発グループ・シニアアドバイザー)
高田 昌和(白鶴酒造株式会社総務人事部資料館・館長)

開講日

2022年12月8日(木)、9日(金)

【授業テーマ】

- 第1回 「灘の酒と風土と歴史」について(高橋) 第2回 「日本酒の作り方」について(小川)
第3回 「日本酒の科学」について(榎本) 第4回 「灘の酒のマーケティング」について(森)
第5回 「灘の酒と料理の相性」について(森脇) 第6回 「日本酒と健康」について(坊垣)
第7回 「酒造資料館」の実地見学1(高田) 第8回 「酒造資料館」の実地見学2(高田)

＊この授業の2日目3・4時限は白鶴酒造資料館で行いました。

「灘五郷」を中心とした酒造りの歴史やそれにまつわる文化・風俗、酒造技術、日本酒と和食・洋食の相性、日本酒と健康、日本酒の風味の秘密、さらにはマーケティングなどについて講義すると共に酒造資料館などの現地見学も行いました。

受講生は、高い倍率の中から当選され、学びたいという思いが非常に強く、質問もしやすい雰囲気から積極的に授業を吸収しようという気持ちが出ていました。受講生からは、授業テーマごとにそれぞれの酒造会社の最前線で活躍されている方々から専門性を活かした授業を受けることで基礎知識を幅広く得ることができた、日本酒の製造工程において映像やサンプル(米粒等)に接して実感をもって学ぶことができた、日本酒の世界が広がった、灘の歴史がよくわかった、等の感想が聞かれました。最後の実地見学を行った酒造資料館では、伝統を守り育てながら最新技術を取り入れおいしい酒造りに邁進している様子を見学するとともに、酒造りの流れに合わせて道具等を見ながら説明を受けたことで、授業で学んだことをよりリアルに感じたようでした。

授業コーディネーター:兵庫県酒造組合連合会・灘五郷酒造組合 常務理事 土田恭弘



専門科目:自然と環境

野菜栽培の基礎

講師

吉田 裕一
(放送大学岡山学習センター客員教授/岡山大学教授)

開講日

2023年1月7日(土)、8日(日)

【授業テーマ】

- 第1回 果菜類(トマト・ナス・ピーマン・キュウリ)の種類と作型 第2回 果菜類の整枝(着果習性)
第3回 農学部附属フィールド科学センターの見学 第4回 肥料の種類と与え方、農薬の種類と使い方
第5回 葉根菜類の種類と作型 第6回 野菜の花芽分化と発育
第7回 葉根菜類の播種と定植 第8回 秋冬野菜の害虫防除

主な野菜の花芽分化特性など野菜を栽培するうえで知っておきたい生理・生態的特性と葉根菜類の播種や肥料の種類と与え方、農薬の種類と使い方など、栽培管理に関する基礎的な知識を中心に、野菜の育て方の要点について解説しました。結果的にCOVID-19の感染第8波のピーク時開講となってしまいましたが、感染防止のためスペースに余裕を持たせた講義室の入室制限ぎりぎりの皆さんが受講してくれました。

年間で一番寒い時期の開講でしたが、フィールド科学センターの野菜圃場見学を初日の午後に予定していました。残念ながら当日は雪混じりの小雨が降り続き2日目の午後に延期になりました。翌日も時折北風が吹く寒中でしたが、圃場を歩いて冬野菜の畑やガラス温室のトマトなどを見ながら質問に答えて、多少とも講義内容の復習が出来たかなと思っています。来年度は10月に開講予定ですので、様々な秋野菜が育っているところを頭に入れてから後半の講義ができるといいなと期待しているところです。



オンライン授業

オンライン授業は、インターネットに接続されたパソコンなどを使い講義を視聴し、学習活動や成績評価の課題(選択式問題、レポート、ディスカッション等)に取り組む授業である。1単位(8コマ)の科目と、2単位(15コマ)の科目があり、1コマあたり、講義が45分程度と学習活動が45分程度を合わせた90分程度である。成績評価は課題により行うため、通信指導や単位認定試験はなく(一部科目は単位認定試験を実施)、自宅や職場

などインターネット環境があれば、場所や時間に縛られることなく自分のペースで学ぶことができる。

2022年度1学期は、2021年度に制作された教養学部4科目と大学院修士課程2科目、及び2学期は教養学部3科目を新規開講した。また、2023年度1学期開講の教養学部5科目と大学院修士課程4科目が新規制作された。

2022年度教養学部 新規開設科目

コース		科目名	単位数
心理と教育	専門科目	SDGsと教育('22)	2
		デジタル情報の処理と認識('22)	2
情報	専門科目	コンピュータグラフィックス('22)	2
		コンピュータビジョン('22)ー画像処理による情報抽出の技法ー	2
		基盤科目 データサイエンス・リテラシ導入('22)	1
	基盤科目	データサイエンス・リテラシ基礎('22)	1
		データサイエンス・リテラシ心得('22)	1

2022年度大学院修士課程 新規開設科目

プログラム		科目名	単位数
社会経営科学		保険法('22)	2
情報学		サイバーボランティア論('22)ーボランティア活動におけるICT活用ー	2

オンライン授業科目数推移

	2015		2016		2017		2018	2019		2020	2021	2022	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	1学期	2学期	1学期	1学期	1学期	2学期
制作科目数 (コマ数)	11 (116)		13 (160)		12 (159)		10 (136)	14 (129)		12 (109)	9 (114)	9 (100)	
運用科目数	2	2	10	13	20	26	38	48	50	61	72	75	78

ライブWeb授業

「同時双方向Web授業(通称:ライブWeb授業)」は、2020年度から実施している面接授業の代替措置としてのWeb授業と、オンライン授業の利点を活かした新たな授業形態である。学習センターではなく、自宅等でパソコン等を用いてリアルタイムで受講する。

8コマのWeb会議システム上での授業を行う1単位科目と、それに加えて7コマのオンデマンド授業を組み合わせた2単位科目が存在し、修得した単位は卒業要件上の「面接授業またはオンライン授業」として修得すべき単位として取り扱われる。

成績評価は授業への参加状況とレポート等の課題により行い、学生は自宅等からPCを用いて参加するため全国の学生が

場所に縛られずに参加することができる。

2022年度第1学期は16科目を開講し、翌2022年度第2学期には14科目を開講した。2023年度第1学期に向けては31科目を開講準備中である。なお、いずれも教養学部のみを開講である。

ライブWeb授業科目数推移

	2021	2022		2023
	2学期	1学期	2学期	1学期
開講科目数	9	16	14	31(予定)

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）

放送大学エキスパート

「科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）」は、本学が2006年から実施している学習プログラム（履修証明プログラム）で、学校教育法第105条「履修証明制度」[Q](#)に対応している。本学が指定する特定の授業科目群20プランに沿って専門分野を体系的に学び申請することで、修了者には法に基づく認証状と証明書のほか、希望者には携帯できる認証カードが交付される。履歴書への記載や、博物館などボランティア活動に役立つ。

2023年1月31日までの累計認証取得件数は32,035件である。

学校教育学第105条「履修証明制度」とは…

社会人などを対象とした、2007年に始まった新しい履修・学習の証明制度。大学などが開設した一定のまとまりある学習プログラム（履修証明プログラム）の修了者に対して、大学などが法に基づく「履修証明書」（certificate）を交付できる制度（詳細は文部科学省のホームページを参照：https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/）である。

2022年度認証プランと認証状取得者数（2023年1月31日現在）		
認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,944
福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,943
社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,503
心理学基礎プラン	心理学基礎	4,481
臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	2,613
市民活動支援プラン	市民政策論	724
異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,353
日本の文化・社会探求プラン	日本の文化と社会	729
宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	849
環境科学プラン	環境科学の基礎	852
芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,443
歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,673
自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	749
工学基礎プラン	工学基礎	453
計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	354
地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	663
日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド（基礎力）養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド（基礎力）養成	279
学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター	160
データサイエンスリテラシープラン	データサイエンス・リテラシー	135
データサイエンスアドバンスプラン	データサイエンス応用基礎	84
実践経営学プラン※①	経営の理解	647
ものづくりMOTプラン※①	ものづくりMOT（技術経営）を学ぶ	393
コミュニティ学習支援プラン※①	地域生涯学習支援	342
アジア研究プラン※①	アジア研究	521
エネルギー・環境研究プラン※①	エネルギー環境政策論	339
社会探究プラン※②	現代社会の探究	694
次世代育成支援プラン※②	次世代育成支援	1,327
生命科学プラン※②	生命人間科学	965
社会数学プラン※②	数学と社会	499
食と健康アドバイザープラン※③	食と健康アドバイザー	960
人にやさしいメディアデザインプラン※③	人にやさしいメディアのデザイン	198
データサイエンスプラン※③	データサイエンス	166
合計		32,035

※①がつくプランは、2019年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2024年3月31日まで申請が可能です。
※②がつくプランは、2021年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。
※③がつくプランは、2022年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2027年3月31日まで申請が可能です。

寄附科目

本学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2022年度には、1科目の寄附科目を放送した。

2022年度開設寄附科目		
科目名	寄附団体名	メディア
著作権法（'22）	日本音楽著作権協会（JASRAC）	ラジオ

キャリアアップ支援【資格取得】

教 員

本学では、現職教員が教育職員検定により、上位や他教科等の教員免許状を取得しようとする際に必要な科目の一部又は全部を履修することができる。

- ▶上位・他教科・隣接校種の教員免許状
- ▶特別支援学校教諭免許状（知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域）
- ▶養護教諭免許状
- ▶栄養教諭免許状
- ▶学校図書館司書教諭資格



看護師

准看護師として7年以上の就業経験を有し、看護師学校養成所2年課程（通信制）に入学して65単位以上を修得して卒業すると、看護師国家試験を受験することができる。その際、放送大学で修得した単位を各養成所の判断により、総取得単位の2分の1を超えない範囲で当該養成所において修得したものとして認定を受けることができる。なお、カリキュラム改正により、2023年度入学生から総単位数が68単位以上に変更になる。

また、放送大学大学院では、看護師の特定行為研修科目のうち、共通科目（講義・演習部分）をオンライン授業として全国の看護師に科目を提供している。なお、2023年3月現在、本学は指定研修機関36機関の協力施設となっている。

- ▶看護師国家試験受験資格
- ▶看護師の特定行為研修制度対応科目



心理学

本学で人気のある心理学は、科目が豊富で、生活や仕事に役立つ知識を得られるだけでなく、資格取得を目指すことも可能である。

日本心理学会が認定する「認定心理士」は、心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を正規の課程において修得していることを認定する資格である。心理職を目指す人には大切な第一歩であり、本学ではこれまでに13,000人以上が資格取得要件を満たしている。

また、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う「臨床心理士」は、内閣府の認可する公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定し、公立学校スクールカウンセラーの資格要件になるなど、公的にも認められている。本学大学院は、受験資格を得るために同協会が指定する大学院（2種）で、修士全科生として臨床心理学プログラムを修了し、修了後合計1年以上の心理臨床実務経験を積んだ後に受験可能になる。本学での臨床心理士資格審査の合格率は、85.2%であった（2022年度の実績）。

「公認心理師」は2015年に成立した「公認心理師法」に基づく、心理職初の国家資格である。本学では、2019年度より学部段階における公認心理師カリキュラムを開設した。なお、対応科目のうち「心理演習」と「心理実習」の2科目を受講するためには選考試験に合格する必要がある。（受講者定員は全体で30名。2023年度「心理演習」「心理実習」受講のための選考試験の出願倍率は17.1倍。）
※本学では大学院段階のカリキュラムには対応していない。

本学で修得した単位は、その他以下の資格取得等のために活用することができる。

- ▶学芸員資格
- ▶社会教育主事任用資格
- ▶社会教育士
- ▶社会福祉主事任用資格
- ▶介護教員講習会の対応科目



特別な学生支援

本学では、障がいのある方で、特別な対応がないと学習に支障をきたす恐れがある場合、障がいの特性に応じた配慮として、様々なサポートを行っている。

例えば、視覚障がい等により印刷教材を読むことが困難な方への支援として、希望者には印刷教材のテキストデータを提供している。

また、新たに国立国会図書館と「視覚障害者等用データ送信サービス」に係る覚書を締結し、2022年度より同サービスへの上記テキストデータの提供も開始した。

一方、聴覚障がい等がある学生への支援としては、テレビ授業科目や特別講義における字幕挿入を行っている。また、インターネット配信では、一部のラジオ科目でも字幕視聴が可能になっている。

さらに単位認定試験では、2022年度より試行を開始したWeb単位認定試験において、Web画面の操作や読み上げ等に障がいのある方については試験時間の延長を認めた他、Web受験ができない方については、これまでと同様に学習センターに来所していただき、音声問題や点字問題による出題や、別室や希望座席での受験を認める等の配慮も実施した。

学生の研究成果の公開

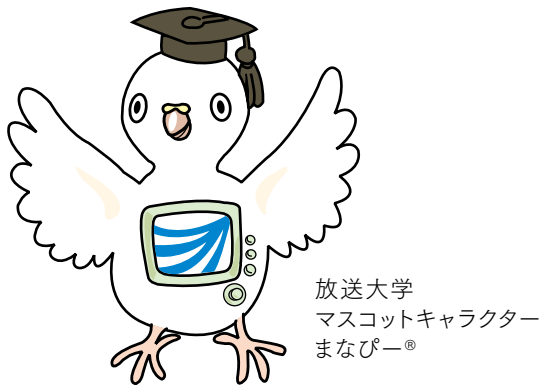
本学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。

2022年度も2021年度履修者の中から、各コースで選ばれた卒業研究報告書について、システムWAKABAで公開した。

大学院については、在学生や今後の入学者への情報提供のほか、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的とし、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年度から2021年3月刊行の第17号まで冊子体で刊行した。

2020年度修了生より各プログラムで選ばれた修士論文について、システムWAKABAでの公開を開始した。

一方、従来「Open Forum」が担っていた学外への発信機能を引き継ぎ、さらに強化することを目的として、2022年3月には教員有志によるオンラインジャーナル「放送大学文化科学研究(The OUJ Journal of Arts and Sciences)」を創刊し、ホームページ(<https://oujjas.com>)での公開を開始した。オンライン化によって在学生に限らず誰からも閲覧可能となっただけでなく、同時に行われたページ制限の緩和によって掲載論文の内容はより充実したものとなっている。また、創刊に当たっては新たに設置された博士後期課程の在籍者・修了者にも門戸を開いたが、2023年3月刊行の第2巻には実際に博士課程研究論文3件、博士研究報告3件の計6報の論文が掲載され、従来の学生論文集の枠を超える高度な内容を持つに至っている。



放送大学
マスコットキャラクター
まなびー®

社会に向けた教育

放送大学ex(愛称:BSキャンパスex) BS231ch



生涯学習支援番組

本学は、2018年10月から生涯学習支援のBS231チャンネルを開設し、人生100年時代における社会人の多様な学び直しのニーズに応え、実践的な知の基礎、職業的能力の向上に資する番組により「学び直し」のきっかけにつながる生涯学習支

援番組を放送している。

2022年度は、新規139番組を含む、全631番組の生涯学習支援番組を放送した。

2022年度の新規放送番組

16番目の授業	社会福祉と法(20)ー求められる「合理的配慮」とはー現代教育入門 どんとこい、イチャモン ー学校と保護者のトラブルを考えるー危機の心理学(17)ー新型コロナウイルス感染症という危機ーコロナの時代 心理臨床の現場では今 第1回/第2回 健康長寿のためのスポーツロジ(19) 日本史史料を読む 北条義時の手紙 はじめての気象学 異常気象 現代の国際政治(22) ーロシアのウクライナ侵攻を考えるー
スペシャル講演	マルクス理論の背後仮説と社会学的人間論の領野 イノベーションと知識創造 ベートーヴェンの人生哲学 ー苦悩を超えて歓喜ー
“科学”からの招待状	質量とは何か この宇宙に存在する物質の根本的性質とその起源を考える 第1回~第4回 ネコのマタタビ反応の謎 アインシュタイン旋風が駆け抜けた日本
BSキャンパスex特集	生活設計とリスクへの備え~知っておきたい生命保険の基礎知識~前編/後編 トランスジェンダーとして生きる~性ホルモンがもたらす からだへの影響~日本人にとってジャズとは何か 第1回/第2回 オンライン授業における障がいのある学生への配慮~聴覚障がい編~/~視覚障がい編~
オーラル・ヒストリーへのいざない	第1回~第3回
放送大学の新たな姿ー教学Vision2027~	前編/後編
数理・データサイエンス・AI 専門講座	ソフトウェア開発への応用 第1回~第8回
	専門講座 多変量データ分析実践の基礎 第1回~第5回
データサイエンスの技術	機械学習概論II 第1回~第4回

数理・データサイエンス・AI 応用基礎講座	AI基礎 第1回~第9回
	応用基礎講座 データサイエンス基礎 第1回~第9回
	応用基礎講座 データエンジニアリング基礎 第1回~第7回
続・日本の近代化を知る	ガイダンス 第12章~第15章
Japanese Modernization Lecture Series	Chapter12~15
筋トレ アカデミアII	第1回~第15回
231オーディトリウム	~米仏映画黄金期への招待~「シェーン」 ~米仏映画黄金期への招待~「我等の生涯の最良の年」 ~米仏映画黄金期への招待~「我等の生涯の最良の年」講義 ~米仏映画黄金期への招待~「大いなる幻影」 ~米仏映画黄金期への招待~「霧の波止場」 ~米仏映画黄金期への招待~「極北のナメーク」 ~米仏映画黄金期への招待~「カサブランカ」 ~米仏映画黄金期への招待~「美女と野獣」 ~米仏映画黄金期への招待~「オルフェ」
特別番組	ビートルズ de 英文法・ライブ!
特別番組(30分)	データサイエンス 番組活用ガイド2022 データサイエンス番組活用ガイド「充実する応用基礎」
特別番組	放送大学 自然と環境コース まなびはじめ
アーカイブス	初歩のイタリア語(17)
放送大学アーカイブス・知の扉	スクールカウンセリング(10) 権力の館を考える(16) 少子社会の子ども家庭福祉(15)



▶“科学”からの招待状 アインシュタイン旋風が駆け抜けた日本

今からちょうど100年前の1922年、当時43歳の物理学者アインシュタイン博士がドイツから来日した。すでに相対性理論の成功で世界的な著名人となっていたが、科学者のみならず、一般市民から各地で熱狂的な歓迎を受け、日本中でアインシュタイン旋風が巻き起こった。また、来日直前のアインシュタインへのノーベル物理学賞授賞の決定が、さらに日本での歓迎を盛り上げた。

1920年代の大正デモクラシー期にアインシュタインが日本で過ごした濃密な43日間の足跡を、自身や同行者が残した日記や記録などを元にたどる。番組では各地で出会った学者や学生との交流の様子、日本の文化・芸術への称賛の記述などを紹介し、アインシュタインの来日が日本の科学の発展に与えた影響や、博士が人生の最後まで貫いた世界平和への願いを考える。



▶16番目の授業 日本史史料を読む 北条義時の手紙

古代から現代まで、各時代の一次史料を通して、時代の特質と社会的背景に迫る、大学院科目「日本史史料を読む」。今回は、その「16番目の授業」として、鎌倉時代の貴重な古文書に迫る。本郷和人東京大学教授と近藤成一放送大学教授、中世史研究における第一人者である2人が、2022年の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の主人公でもある北条義時が書き残した文書

を中心に紐解く。執権となった北条義時の貴重な書状が山形県酒田市にある本間美術館に残されている。承久の乱に直面した義時の心情を伝える書状から、何が浮かび上がるのか。貴重な古文書を丹念に読み解き、鎌倉幕府成立期における武士の生き様、そして、新たな武家政治の時代を築いたそのプロセスに迫る。

キャリアアップ支援認証制度

本学が開設する公開講座等により体系的に編成された講習を修了した方に対して独自の認証状を発行する「キャリアアップ支援認証制度」を実施している。本制度は、様々なニーズに応え受講者のキャリアアップに資する講座を柔軟な仕組みで提供するものであり、本学学生でなくても受講できる。また、修了者には、認証状の他、デジタルバッジを発行する。2022年度に

インターネット配信公開講座

本学のキャリアアップ支援認証制度に係る公開講座及び生涯学習支援番組の一部をインターネットにて配信する「インターネット配信公開講座」を2020年に開始した。2022年度においてはキャリアアップ支援認証制度16講座(有料)、生涯学習支援番組(無料)51講座を配信した。キャリアアップ認証制度講座は、個人受講のほか大学の授業や企業の研修等による団体受講にも利用されている。

は、「AI戦略2019」を踏まえて数理・データサイエンス・AI人材の育成に資することを目的としたインターネット配信公開講座「数理・データサイエンス・AI講座」のリテラシーレベル、応用基礎レベル、発展・専門に加え、「小学校プログラミング教育 実践編」・「中学・高校プログラミング教育 導入編」を開講した。



単位互換の取り組み

本学は、「他大学との単位互換の推進により、わが国の大学教育の改善に資すること」を設置目的の一つに掲げている。本学と単位互換協定を締結している大学及び短期大学は410 大学あり、日本国内の全大学・短期大学の約37％にのぼる。さらに12 大学院、17校の高等専門学校とも単位互換協定を締結しており(2022年11月1日現在)、大学等から受け入れる学生数は年間で約4,500名(延べ約7,000科目)に達する。

平成30年11月26日の第119回中央教育審議会総会で取りまとめられた「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」において「複数の大学等の人的・物的リソースを効率的に共有することで、一つの大学では成し得ない多様な教育プログラムを提供することができるよう、単位互換等の制度運用の改善

専修学校との連携協力

本学では、専修学校との連携協力として、専修学校に在学しながら本学にも入学し、本学の科目を併修する制度を実施している。時間と場所を問わずに学ぶことのできる本学の特徴を活かし、専修学校での学習と組み合わせて学べ、本学卒業により学士(教養)の学位を取得することが可能である。

2022年度には、新たに4校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、連携協力校は合計60校となった。

2022年度に締結した連携協力校(専修学校)	
厚木看護専門学校	北部看護学校
延岡看護専門学校	専門学校九州テクノカレッジ

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について 支援番組のシリーズの1つとしてBS231チャンネルで放送して深く掘り下げて講義を行っており、テレビ特別講義は生涯学習 いる。

2022年度放送の特別講義		
講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
「風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラーキーまで～」	詩人 林 浩平	テレビ
マヤの宇宙観～聖なる時間と十字架～	立教大学名誉教授 実松 克義 放送大学准教授 佐藤 仁美	テレビ
『おくのほそ道』の真髓 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学教授 魚住 孝至	テレビ
笑いの哲学 ～コントで分析～	日本笑い学会会長、関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	テレビ
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲	テレビ
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	テレビ
文人精神の系譜ー与謝蕪村から吉増剛造までー	恵泉女学園大学特任教授・詩人 林 浩平	テレビ
薩摩硫黄島の熊野三山と『平家物語』	國學院大學教授 野中 哲照	テレビ
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学客員教授 関根 千佳 放送大学教授 広瀬 洋子	テレビ
共に生きる社会を目指して ～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	テレビ
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし ～本当は豊かな性のあり方～	東京大学大学院専任講師 石丸 径一郎	テレビ
気仙沼ESDの軌跡:持続可能な社会の創造をめざして	東京大学海洋ライアンス海洋教育促進研究センター 特任研究員(主幹研究員) 及川 幸彦	テレビ
摩擦の世界	青山学院大学教授 松川 宏 筑波大学准教授 氏家 恒太郎 東京大学生産技術研究所教授 川勝 英樹	テレビ
ブラックホールー ばく大なエネルギーの発生源ー	東京大学教授 牧島 一夫 東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	テレビ
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅰ 私が感化された教育とは	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	テレビ
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅱ どう鍛えられ研究を深めたか	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	テレビ
トップアスリートのメンタルに学べ	スポーツメンタルトレーニング上級指導士・ ソウル五輪シンクロデュエット銅メダリスト 田中 ウルヴェ 京	テレビ
エンジニアが映像で挑む!～トップアスリート強化～	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部専門研究員 三浦 智和	テレビ
海底に探るエネルギー資源ー日本海・メタンハイドレート～	明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 松本 良	テレビ
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康 ー高所適応とグローバル化による攪乱ー	放送大学特任教授 稲村 哲也 京都大学連携教授 奥宮 清人	テレビ
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	北里大学特別栄誉教授 大村 智 女優、科学番組プログラム アシスタント 黒田 有彩	テレビ
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイソトポマー～	東京工業大学地球生命研究所特任教授 吉田 尚弘 フリーアナウンサー 岩田 まこ都	テレビ
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	東京大学名誉教授 跡見 順子 能楽師 森 常好 フリーアナウンサー 高松 祥子	テレビ

2022年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
手本をはなれて ～“想画”を生んだ奥出雲の地から～	前島根学習センター所長 佐々 有生 農業 青木 宗一 声優、ナレーター 加藤 沙織 声優 宮林 康 声優 青木 強	テレビ
レゲット教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	イリノイ大名誉教授 アンソニー・レゲット 放送大学教授 松井 哲男 京都大学名誉教授 佐藤 文隆 前東京大学教授 福山 寛 アナウンサー 青谷 優子	テレビ
通信教育で人生が変わった～女優・作家 中江有里～	女優・作家 中江 有里	ラジオ
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	元東京藝術大学教授・学術博士 安藤 政輝	ラジオ
編集者漱石 ①編集者子規	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ
研究不正と研究倫理	放送大学教授 児玉 晴男	ラジオ
DV被害者の声～求められる支援のありかたとは～	愛知県立大学名誉教授 須藤 八千代	ラジオ
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	東洋大学教授 白石 弘巳	ラジオ
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	東洋大学教授 白石 弘巳	ラジオ
困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに私たちができること～	NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵	ラジオ
医療・健康で地域をつなぐ	大阪産業大学教授 佐藤 真治	ラジオ
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教	ラジオ
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏	ラジオ
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	ラジオ
科学は文化だ ー科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会ー	日本科学未来館広報・普及課長 富田 知宏 放送大学教授 奈良 由美子 文部科学省人材政策課課長補佐 石橋 一郎	ラジオ
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦	ラジオ
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明	ラジオ
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	ラジオ
脳と心ー分子生物学者がみた精神医学ー ①部品の科学と全体としての脳	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
脳と心ー分子生物学者がみた精神医学ー ②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	健康社会学者・文藝家 河合 薫 ラッシュジャパン人事部長 安田 雅彦	ラジオ
脳脊髄液減少症と児童・生徒	国際医療福祉大学熱海病院教授 篠永 正道	ラジオ
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	東京工業大学地球生命研究所特命教授 丸山 茂徳 放送大学プロデューサー 高比良 一道	ラジオ

一般向け講演会

本学で培われた教育並びに研究成果は、広く社会に提供され大学と
社会相互のさらなる発展が期待される。本学では、主に全国の学習セ
ンターを通じて、一般市民を対象とした公開講演会等を開催し、その
知識を社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

2022年度公開講演会

所属	講師	テーマ	主催	共催等	方式	日時
学長	岩永 雅也	ポストコロナ時代の放送大学 ～ピンチを奇貨として～	長崎SC		対面とWebの併用	5月28日
		ポストコロナの生涯学習 ～変わる形・変わらない思い～	福岡SC		対面	6月18日
		「教育と生涯学習の新時代 ーよりよい社会と人生のためにー」	新潟SC	佐渡市教育委員会	対面	7月8日
		神話「教育立国日本」について考える ー昭和・平成・令和の教育言説考ー	岐阜SC	岐阜県環境生活政策課・岐阜県図書館	対面とWebの併用	8月5日
		ポストコロナの生涯学習 ～変わる形・変わらない思い～	静岡SC		対面とWebの併用	10月8日
生活と福祉	教授 石丸 昌彦	生涯学習シンポジウム「とちぎ発!令和の日本型生涯学習社会の構築を目指して」	栃木県総合教育センター 栃木SC		対面とWebの併用	2月17日
		メンタルヘルスと死生観～スピリチュアリティをめぐる考える～	東京渋谷SC・広報課		対面とWebの併用	1月28日
		メンタルヘルスと死生観～スピリチュアリティをめぐる～	東京足立SC 足立区生涯学習センター		対面	2月18日
生活と福祉	教授 田城 孝雄	新型コロナウイルス感染症 「新型コロナウイルス感染症について ーウイズコロナ時代の「ヘルスリテラシー」ー」	東京渋谷SC・品川区 新潟SC	放送大学新潟同窓会	Web 対面	6月4日 10月9日
生活と福祉	教授 戸ケ里 泰典	コロナ禍を健康に生きるために ー健康生成論とストレス対処力の考え方ー	島根SC		対面	6月18日
心理と教育	教授 進藤 聡彦	子どもの「つまずき」の元を見つける教育心理学～正しい理解を妨げる素朴概念とは～	東京渋谷SC・広報課		対面とWebの併用	8月6日
社会と産業	特任教授 児玉 晴男	サブスクリプション	東京渋谷SC・大田区		対面とWebの併用	7月28日
社会と産業	准教授 白鳥 潤一郎	「資源小国」日本の生きる道～最近の国際情勢を踏まえて～	佐賀SC	佐賀県女性と生涯学習財団・佐賀県立図書館	対面	2月5日
社会と産業	教授 原 武史	戦後の皇室像と浜名湖 春の鉄道旅行のすすめ	浜松SS 兵庫県・神戸市教育委員会		対面とWebの併用 対面	2月4日 3月17日
社会と産業	教授 李 鳴	保険法と市民生活 ー生命保険と相続を中心にー	茨城SC	茨城県立図書館	対面とWebの併用	3月11日
人間と文化	教授 大橋 理枝	ビートルズ de 英文法・ライブ!	東京文京SC・広報課		対面とWebの併用	7月30日
人間と文化	教授 近藤 成一	北条義時の妻と子 ー「鎌倉殿の13人」に寄せてー	千葉SC		対面とWebの併用	6月18日
情報	教授 浅井 紀久夫 准教授 森本 容介	古文書にさぐる土佐国の中世	高知SC	オーテピア高知図書館	対面	9月3日
		北畠親房と常陸国	茨城SC	茨城県立図書館	対面とWebの併用	9月17日
		鎌倉幕府の将軍と執権	千葉SC		対面とWebの併用	9月24日
		北条義時を継ぐもの ー鎌倉武士の兄弟関係ー	東京渋谷SC・目黒区		対面とWebの併用	12月10日
		コンピュータービジョンとAI ～画像からシーンを理解する～	東京文京SC・広報課		対面とWebの併用	8月20日
		教育・学習分野におけるデータ活用	高知SC		対面	6月25日
		初めて学ぶWeb ～しくみと安全な使い方～	東京文京SC・広報課		対面とWebの併用	2月18日
		宮沢賢治の宇宙観	埼玉SC	さいたま市宇宙劇場	対面	2月4日
		公開レクチャー・コンサート「ベートーヴェンのピアノ・ソナタと共に」	青森SC	弘前市教育委員会	対面	12月4日
		近世城下町としての水戸の成り立ちとその変化 ー武家地を中心にー	茨城SC	茨城県立図書館	対面	4月16日
自然と環境	教授 谷口 義明 青森SC 所長 浅野 清 茨城SC 所長 小野寺 淳	江戸後期から幕末の水戸城下 ー武家地と町人地の違いを中心にー	茨城SC		対面とWebの併用	10月16日
		「受け入れるコトバと排除するコトバ」言語の持つ2つの社会的側面	東京文京SC		Web	3月11日
		太陽電池の発電原理	岐阜SC		対面とWebの併用	3月4日
		リスクの心理学	愛知SC			
		新しいくすり誕生の秘話	三重SC			
		現場で役立つ高精度エンドミル加工	鳥取SC	とっとり県民カレッジ連携講座	対面	7月30日
		電気自動車(EV)の普及について				8月6日
		これからは電気自動車?ハイブリッド車?				2月12日
		法隆寺、1300年の風雨				2月19日
		健康に対する骨格筋の重要性	山口SC	下松市教育委員会	対面	12月10日
社会と産業	山口SC 所長 杉浦 崇夫 愛媛SC 所長 加藤 好文 高知SC 所長 深見 公雄 長崎SC 所長 山下 敬彦 熊本SC 所長 古島 幹雄	メタボ予防のための運動	山口SC	周南市教育委員会	対面	12月17日
		私たちにとってのアメリカ文学・文化 ージョン・スタインベックを事例として	愛媛SC		対面	1月28日
		海のプラスチック問題を考える～悪影響の原因とメカニズム、そしてこれからの動き～	高知SC		対面	8月7日
		長崎の海洋エネルギーの可能性	長崎SC		対面とWebの併用	2月5日
		数学的コレクトネスとポリティカルコレクトネス(ポリコレ)	熊本SC		対面	4月10日
		2030年問題と生涯学習の質的転換	熊本SC	人吉市教育委員会	対面	8月28日
		生涯学習の質的転換	熊本SC	菊陽町教育委員会・熊本大学	対面	11月23日
		・いつでも誰にでも開かれた放送大学	鹿児島SC		対面	7月30日
		・博物学者 島津重豪				

オープンコースウェア(OCW)

OCWは「大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で無償公開する活動」であり、1999年米国マサチューセッツ工科大学(MIT)から始まったものである。学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された本学は、OCWの理念に賛同し、2010年にインター

ネットによる配信を開始した。現在、本学で開講する放送授業(テレビ及びラジオ)のほとんどの科目(全15回番組)において、1番組または全15番組を本学学生以外の方にもインターネットにて公開している。また、一部の特別講義も公開している。

2022年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)

テレビ授業科目	
科目名	講師
情報学へのとびら('22)	加藤 浩／大西 仁
日本語リテラシー('21)	滝浦 真人
遠隔学習のためのパソコン活用('21)	秋光 淳生／三輪 眞木子
英語で「道」を語る('21)	大橋 理枝／斎藤 兆史
人体の構造と機能('22)	坂井 建雄／岡田 隆夫
地域福祉の課題と展望('22)	斉藤 弥生／小松 理佐子
疾病の成立と回復促進('21)	岡田 忍／佐伯 由香
子どもの人権をどうまものか('21)	山縣 文治
コミュニティがつなぐ安全・安心('20)	林 春男
災害看護学・国際看護学('20)	神崎 初美／西上 あゆみ
今日のメンタルヘルス('19)	石丸 昌彦
社会保障の国際動向と日本の課題('19)	埋橋 孝文／居神 浩
レジリエンスの諸相('18)	奈良 由美子／稲村 哲也
学習・言語心理学('21)	高橋 秀明
教育調査の基礎('20)	藤田 武志／西島 央
教育社会学概論('19)	岩永 雅也
地域コミュニティと教育('18)	玉井 康之／夏秋 英房
現代社会の児童生徒指導('17)	古賀 正義／山田 哲也
現代の内部監査('22)	齋藤 正章／蟹江 章
サプライチェーン・マネジメント('21)	松井 美樹
新時代の組織経営と働き方('20)	原田 順子／若林 直樹
経営情報学入門('19)	木嶋 恭一／岸 眞理子
エネルギーと社会('19)	迫田 章義／堤 敦司
地球温暖化と社会イノベーション('18)	六川 修一／向井 人史
住まいの環境デザイン('18)	梅干野 晁／田中 稲子
家族と高齢社会の法('17)	川島 志保／関 ふ佐子
環境の可視化('15)	梅干野 晁／中村 恭志
日本語学入門('20)	滝浦 真人
中国と東部ユーラシアの歴史('20)	佐川 英治／杉山 清彦
博物館概論('19)	稲村 哲也
博物館情報・メディア論('18)	稲村 哲也／近藤 智嗣
日本の古代中世('17)	佐藤 信／近藤 成一
教育のためのICT活用('22)	中川 一史／苑 復傑
情報セキュリティ概論('22)	山田 恒夫／辰己 丈夫
身近なネットワークサービス('20)	葉田 善章
Webのしくみと応用('19)	森本 容介／伊藤 一成
コンピュータとソフトウェア('18)	辰己 丈夫／中谷 多哉子
コンピュータの動作と管理('17)	葉田 善章
初歩からの物理('22)	岸根 順一郎／松井 哲男
入門微分積分('22)	石崎 克也
量子物理学('21)	松井 哲男／岸根 順一郎
場と時間空間の物理('20)	松井 哲男／岸根 順一郎
生命分子と細胞の科学('19)	二河 成男
宇宙の誕生と進化('19)	谷口 義明
太陽と太陽系の科学('18)	谷口 義明

初歩からの化学('18)	安池 智一／鈴木 啓介
物理の世界('17)	岸根 順一郎／松井 哲男
学校臨床心理学特論('21)	倉光 修

ラジオ授業科目	
科目名	講師
市民自治の知識と実践('21)	山岡 龍一／岡崎 晴輝
社会と産業の倫理('21)	松原 隆一郎／山岡 龍一
ビートルズ de 英文法('21)	佐藤 良明
社会福祉実践とは何か('22)	横山 登志子
睡眠と健康('21)	宮崎 総一郎／林 光緒
リスク社会の家族変動('20)	田間 泰子
ライフステージと社会保障('20)	丸谷 浩介
健康への力の探究('19)	戸ヶ里 泰典／中山 和弘
感染症と生体防御('18)	田城 孝雄／北村 聖
看護管理と医療安全('18)	大島 弓子／飯島 佐知子
現代教育入門('21)	岩永 雅也／岩崎 久美子
学校と法('20)	坂田 仰
思春期・青年期の心理臨床('19)	大山 泰宏
心理と教育へのいざない('18)	田中 統治／向田 久美子／佐藤 仁美
政治学入門('22)	山岡 龍一／待鳥 聡史
NPO・NGOの世界('21)	大橋 正明／利根川 佳子
現代東アジアの政治と社会('20)	家近 亮子
環境問題のとらえ方と解決方法('17)	岡田 光正／藤江 幸一
西洋哲学の根源('22)	納富 信留
韓国朝鮮の歴史と文化('21)	須川 英徳／三ツ井 崇
日本の近世('20)	杉森 哲也
コミュニケーション学入門('19)	大橋 理枝／根橋 玲子
日本仏教を捉え直す('18)	末木 文美士／頼住 光子
日本文学の名作を読む('17)	島内 裕子
音を追究する('16)	大橋 理枝／佐藤 仁美
AIシステムと人・社会との関係('20)	山口 高平／中谷 多哉子
現代を生きるための化学('22)	橋本 健朗
エントロピーからはじめる熱力学('20)	安池 智一／秋山 良
統計学('19)	藤井 良宜
線型代数学('17)	隈部 正博
解析入門('18)	河添 健
福祉政策と人権('22)	金川 めぐみ
ヘルスリサーチの方法論('19)	井上 洋士
生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
成人の発達と学習('19)	岩崎 久美子
日本文化と思想の展開－内と外と('22)	魚住 孝至
朝鮮の歴史と社会－近世近代('20)	須川 英徳
コンピューティング('19)	萩谷 昌己
音楽・情報・脳('17)	仁科 エミ／河合 徳枝
情報学の技術('18)	中谷 多哉子／辰己 丈夫
現代物理の展望('19)	岸根 順一郎／松井 哲男
計算論('16)	隈部 正博

2022年度インターネット無償公開特別講義

テレビ特別講義	
科目名	主な講師
手本をはなれて ～“想画”を生んだ奥出雲の地から～	佐々 有生／青木 定男
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	大村 智
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイトボマー～	吉田 尚弘
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	跡見 順子
レグット教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	アンソニー・レグット
「風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラキーまで～」	林 浩平
マヤの宇宙観～聖なる時間と十字架～	実松 克義／佐藤 仁美
気仙沼 ESDの軌跡： 持続可能な社会の創造をめざして	及川 幸彦
摩擦の世界	松川 宏／氏家 恒太郎
『おくのほそ道』の真髄 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	魚住 孝至
笑いの哲学～コントで分析～	森下 信也
年縞が語る地球環境史	安田 喜憲
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン 交響曲第九演奏会～東京藝術大学奏楽堂～	山本 純ノ介／茂木 一衛
文人精神の系譜 一与謝蕪村から吉増剛造まで一	林 浩平
ノーベル賞科学者の軌跡 I 私が感化された教育とは	益川 敏英／梶田 隆章
ノーベル賞科学者の軌跡 II どう鍛えられ研究を深めたか	益川 敏英／梶田 隆章
エンジニアが映像で挑む！ ～トップアスリート強化～	三浦 智和

ラジオ特別講義	
科目名	主な講師
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	河合 薫
脳脊髄液減少症と児童・生徒	篠永 正道
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	丸山 茂徳
研究不正と研究倫理	児玉 晴男
DV被害者の声 ～求められる支援のありかたとは～	須藤 八千代
科学は文化だー科学技術週間60年の 変遷にみる日本の科学と社会ー	富田 知宏／奈良 由美子
通信教育で人生が変わった ～女優・作家 中江有里～	中江 有里
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	白石 弘巳
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	白石 弘巳
天文学を魅力的に伝えたい	縣 秀彦
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	安藤 政輝
困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに私たちができること～	森山 誉恵
医療・健康で地域をつなぐ	佐藤 真治
現代社会におけるイノベーションの意味	吉川 智教
編集者漱石①編集者子規	長谷川 郁夫／草光 俊雄
編集者漱石②朝日新聞の時代	長谷川 郁夫／草光 俊雄
終活学 満足して人生を終える	長尾 和宏
江戸農書からみる現代農業と日本社会	徳永 光俊
ヒューマンインタフェース技術のタネは 日常生活のなかにある	黒須 正明
食の安全と環境汚染物質 ～メチル水銀を例に～	佐藤 洋
脳と心－分子生物学者がみた精神医学	糸川 昌成
－①部品の科学と全体としての脳	
脳と心－分子生物学者がみた精神医学	糸川 昌成
－②家族の旅から回復を体験すること	

放送大学における研究

学習教育戦略研究所における研究

学習教育戦略研究所は、学習や教育、放送大学学園の経営について、教員と事務職員とが協働で課題解決に向けた活動を行う新しい形の研究組織として2018年度に設置された。本学園が保有する膨大な学習・教育情報の分析等を通じて、最先端のICT技術も含め、より効果的な学習・教育方法の調査・研究や、本学園の経営改善に資する各種情報の収集・分析、それら成果の活用等を行うことにより、変化する社会ニーズへ迅速に対応し、本学園や我が国の高等教育の充実発展に寄与することを目的としている。

2022年度には、教職員からの提案を受け、次の研究課題を実施した。

研究課題（2022年度実施採択順）			
所属	職名	氏名	研究課題
情報	教授	青木 久美子	本学におけるライブWeb授業拡充のための調査研究
情報	教授	広瀬 洋子	放送大学における聴覚障がい学生への情報保障および新しいオンラインコンテンツの開発（音声認識・ボランティア活用・新しいオンラインコンテンツ）
情報	教授	山田 恒夫	マイクロクレデンシャルの実用化に向けた実証的研究
心理と教育	准教授	佐藤 仁美	オンライン環境を活用したアートセラピー体験のための基礎研究－素材と場づくりを中心に－
情報	教授	芝崎 順司	放送大学におけるデータサイエンス教育に対するリメディアル教育の必要性や課題に関する調査
情報	准教授	葉田 善章	博物館構想における情報コース資料機器の活用を目指した展示手法に関する研究
	副学長	近藤 智嗣	デジタルデバйдの解消を推進するためのBYODの実現可能性調査
心理と教育	教授	岩崎 久美子	放送大学教材を用いた高校生対象先取り学習の試行
人間と文化	准教授	鶴見 英成	大学ミュージアムの展示・運用・活用に関する多角的研究－放送大学資料館設置に向けて
	副学長	近藤 智嗣	プリントマネジメントを見据えた印刷物制作業務のDX推進

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は本学の専任教員等が日頃の研究成果を発表する場である。

2022年度版（第40号）は2023年3月に発行された。

2022年度放送大学研究年報（第40号）著者及び論題	
著者	論題
関根 紀子、奈良 由美子、戸ヶ里 泰典	COVID-19流行下における放送大学生の学習に対する意識の変化
戸ヶ里 泰典、井上 洋士、大島 岳、阿部 桜子、細川 陸也、高久 陽介	Stress-related growth and health in Japanese people living with HIV
石井 祥子、奈良 由美子、鈴木 康弘、稲村 哲也、スヘー・バートルガ、ビャンバジャブ・ナルマンダハ	モンゴルにおける持続的な防災啓発活動－防災カルタ、市民主導の防災ワークショップ、映像コンテンツ
山田 知子	方面委員制度における女性の位置－女性は排除されたのか
橋本 鈺市	「教育産業」はどう論じられてきたか－4大全国紙の報道内容の計量テキスト分析－
櫻井 直輝、阿内 春生	学校管理職の資質能力はどのような語で記述されているのか?:計量テキスト分析による国際比較
佐藤 仁美	イメージを紡ぎ出す装置・育む器－環境と素材に焦点をあてて－
坂井 素思	社会時間とは何か－他者との共時化による近代の時間構成－
稲村 哲也、鶴見 英成、葉田 善章、大山 泰宏、佐藤 仁美、大森 聡一、安池 智一、五藤 素直	放送大学資料館(仮)設立の準備と共同研究
広瀬 洋子、池田 龍彦、角田 哲哉、工谷 格	放送大学における聴覚障害学生への情報保障－本学のラジオ授業字幕のための音声認識システムの比較検証－

2022年度放送大学研究年報（第40号）著者及び論題	
著者	論題
葉田 善章	教材アーカイブシステムの課題と変革
田中 功一、小倉 隆一郎、林 麻由美、鈴木 泰山、辻 靖彦	ピアノ初心者の個人練習支援を目的とした練習内容の解明
森 津太子、高橋 秀明、進藤 聡彦、向田 久美子	Webベースの面接授業「心理学実験」に関する実践的研究
島内 裕子	各務支考『つれづれの讀』続考

外部資金による研究

本学では、専任教員等が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金を積極的に得て研究を進めている。2022年度に放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

放送大学教育振興会助成による研究：多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発（採択順）			
所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	教授	森 津太子	心理学実験実習に係るオンライン教材の研究開発
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	保健・看護系大学院生のための統計学習ウェブサイトの開発－多変量解析法を中心に－
情報	教授	加藤 浩	記号倫理学における推論の妥当性検証方法を教育するWebアプリケーションの開発
自然と環境	教授	石崎 克也	遠隔教育を有効にするためのモバイル学習教材開発について～統計学・データサイエンス教育に関する印刷教材・web学習教材の改善～

放送大学教育振興会助成による研究：教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業			
所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	教授	苑 復傑	感染症流行に伴う大学遠隔授業の導入とその中長期的含意－日中米比較

放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成			
所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	近藤 智嗣	日中韓セミナーの開催及び高等学校との連携協力推進事業
	副学長	近藤 智嗣	学習教育戦略研究所におけるDX関連研究の推進

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）（研究種目・研究終了予定日順）				
所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教授	谷口 義明	基盤A	スーパーウインドによる銀河と銀河間物質の共進化
社会と産業	特任荣誉教授	柳原 正治	基盤B	外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究
情報	教授	加藤 浩	基盤B	学習者の表出動作から心的状態を推定し集計・フィードバックするシステムの開発
心理と教育	教授	森 津太子	基盤B	ナッジとしての"見つめる目"効果：仮想および実空間における社会実験
愛知SC	特任教授	氏家 達夫	基盤B	胎児期に原発事故を経験した福島の子どもたちの小学校への適応についての発達的研究
客員	客員教授	小川 正人	基盤B	労働法制改編に伴う教員の新たな勤務時間管理方策の影響と課題に関する調査研究
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	看護実践に特化した健康生成論とストレス対処力概念SOCに関する応用モデルの開発
人間と文化	教授	河原 温	基盤B	中近世ヨーロッパ社会における合意形成の起源と展開－合議制・代議制の理念と現実－
人間と文化	教授	鶴見 英成	基盤B	古代アンデスの農村と神殿：古環境における生態資源利用と社会変化の研究
情報	教授	仁科 エミ	基盤B	スマートフォンの負の影響を緩和するモバイルハイパーソニックシステムの開発と評価
生活と福祉	教授	山内 豊明	基盤B	看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究
情報	教授	山田 恒夫	基盤B	公正で個別最適化された生涯学習を実現するデジタル・エコシステムの研究
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤B	カイラリティが誘導するフォノン・スピン・フォトン交差結合の理論

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）（研究種目・研究終了予定日順）				
所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
心理と教育	教授	橋本 鈺市	基盤B	教育機関と産業界・地域・市民社会を架橋する境界領域(EBF)に関する実証的研究
客員	客員教授	稲村 哲也	基盤B	山岳高所における環境・動物・人の相互作用のダイナミズムー中央アンデスを中心に
奈良SC	特任教授	井上 容子	基盤C	視覚特性を考慮した快適タスク&アンビエント照明の究明と実用化に向けた設計法の提案
茨城SC	特任教授	小野寺 淳	基盤C	19世紀における地図製作者の系譜と作図法の継承・革新
山梨SC	特任教授	村松 俊夫	基盤C	附属学校との連携による触知型教育遊具の効果検証とそのアーカイブ化
長崎SC	特任教授	山下 敬彦	基盤C	汚損湿潤がいし表面における放電の進展を考慮した動的放電モデルの開発
心理と教育	准教授	向田 久美子	基盤C	児童書に見る文化的スクリプトとその媒介者としての親：日中米の比較研究
情報	特任教授	三輪 眞木子	基盤C	高齢者のヘルスリテラシー向上のための教材開発と教育方法の提案
心理と教育	教授	進藤 聡彦	基盤C	ルールと操作的知識の構造化が教科学習の促進に及ぼす効果と教材開発
自然と環境	教授	石崎 克也	基盤C	差分方程式の複素領域における研究とその応用について
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	基盤C	骨伝導を利用した超広帯域音響による深部脳賦活法の研究と実用検討
情報	教授	浅井 紀久夫	基盤C	技能伝承のための分散協調訓練での深層学習による触力覚再現の個人化と再校正への対応
人間と文化	教授	滝浦 真人	基盤C	近現代日本語におけるポライトネス意識の通時的変化の研究：敬語と授受表現をめぐる
情報	教授	中谷 多哉子	基盤C	概念モデルに基づくアクターのアクセス権限を考慮した要求獲得に関する研究
情報	准教授	辻 靖彦	基盤C	大学教員の大規模実態調査に基づくICT活用度診断モデル構築の実証的研究
客員	客員研究員	田中 功一	基盤C	保育者を志望するピアノ初級学習者の個人練習の内容調査と分析及びそのフィードバック
客員	客員教授	内堀 基光	基盤C	サラワク・イバン社会における居住空間の現代的再編成に見る社会的強靱性
情報	教授	伏見 清香	基盤C	被災館支援システムによるミュージアムの情報と空間の関係性と相互作用に関する研究
千葉SC	特任教授	片岡 洋子	基盤C	現代中等教育におけるフレネ教育の研究
文京SC	特任教授	林 徹	基盤C	フォーリナー・トークから見るドイツのトルコ系移民コミュニティの言語的特徴
奈良SC	特任教授	井上 容子	基盤C	生活シーンと視覚特性の加齢変化を考慮した一日を通した照明の適正化手法の究明と提案
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	緑地に隣接する建築物のありかたが鳥類による緑地の利用に及ぼす影響
心理と教育	教授	岩崎 久美子	基盤C	新たな社会教育主事講習へのファシリテーション技法導入の有効性に関する基礎的研究
北海道SC	特任教授	山田 義裕	基盤C	東アジアにおける拡張現実時代の平和と観光に関する研究
情報	准教授	葉田 善章	基盤C	生涯学習における履歴に基づく教育サービス改善を目的とした学習解析手法に関する研究
情報	准教授	森本 容介	基盤C	xAPIによる学習履歴データの記述とその利活用に関する研究
秋田SC	特任教授	倉林 徹	基盤C	繊維種テラヘルツスペクトルの定量分析法と繊維中の欠陥評価に関する研究
新潟SC	特任教授	大原 謙一	基盤C	Hilbert-Huang変換を用いた重力波の非モデル化探索
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	国際A	脳機能解析に基づくセマンティック騒音評価システム
社会と産業	准教授	白鳥 潤一郎	若手研究	先進国間協調体制の形成と変容：主要国首脳会議における日本外交、1975-1983
心理と教育	教授	丸山 広人	若手研究	インシデントプロセス法を活用した納得感に焦点づけた説得的面接法の開発
心理と教育	准教授	櫻井 直輝	若手研究	市町村教育予算の規定要因として地方交付税制度に関する研究
人間と文化	教授	大村 敬一	新学術領域研究 (研究領域提案型)	アメリカ大陸極北圏での人類の認知技能の発達に関する民族認知考古学的研究
人間と文化	准教授	鶴見 英成	新学術領域研究 (研究領域提案型)	人工的環境の構築と時空間認知の発達
岡山SC	特任教授	松本 俊郎	研究成果公開促進費 (学術図書)	「満州国」以後-中国工業化の源流を考える-
客員	客員教授	稲村 哲也	挑戦的研究(開拓)	遊牧・山岳・先住民地域におけるリモート教育のモデル構築に関する実践的研究
心理と教育	教授	橋本 鈺市	挑戦的研究(萌芽)	高度情報化時代における高等教育政策の形成プロセスとメカニズム
生活と福祉	教授	奈良 由美子	挑戦的研究(萌芽)	政治家に必要な科学リテラシー・コミュニケーション能力の同定とその開発支援ツール
	特別研究員	加藤 彰人		特別研究員奨励費カイラル分子スピン選択性の理論的解明
	特別研究員	竹重 志織		特別研究員奨励費都市における水鳥の移動経路として河川が備えるべき条件の解明

その他外部資金助成による研究（本学の教員が代表のもののみ）

その他外部資金助成による研究（本学の教員が代表のもののみ）					
所属	職名	氏名	助成元	資金名・事業名等	研究課題名
情報	教授	青木 久美子	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	生涯学習を可視化する デジタルクレデンシャルの調査研究
宮城SC	特任教授	高橋 満	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	新しい博物館教育論にもとづく デジタル学習支援法の開発と評価
生活と福祉	教授	井出 訓	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	認知症介護家族の心理的成長を促す継続的 教育プログラムの開発に向けた基礎的研究

研究成果の発表・普及【書籍等出版物】

本学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及する 纂を行っている。これらの書籍は、より専門的かつ先進的な内容を含んでお
ために、印刷教材以外にも、多数の書籍編集・執筆、及び辞書・辞典などの編 り、各教員が日々取り組んでいる独自の研究テーマや研究活動の成果である。

2022年度研究成果の発表・普及【書籍等出版物】					
所 属	氏 名	書 籍 名、辞書・辞典名	出版社	出版年月	
生活と福祉	川原 靖弘	The Social City - Space as Collaborative Media to Enhance the Value of the City, Yasuhiro Kawahara, Saburo Saito, Junichi Suzuki (Ed.)	Springer	2023年3月	
	奈良 由美子	熊本地震の真実——語られない「8つの誤解」、鈴木康弘、竹内裕希子、奈良由美子	明石書店	2022年8月	
		大学生が狙われる50の危険ー学生と親のための安全・安心マニュアル、三菱総合研究所、 全国大学生生活協同組合連合会、日本コープ共済生活協同組合連合会、奈良由美子	青春出版社	2023年2月	
		科学技術のリスクコミュニケーションー新たな課題と展開ー科学技術に関する 調査プロジェクト報告書、三上直之、奈良由美子、中谷内 一也、矢守克也ほか	国立国会図書館	2023年3月	
	山内 豊明	ベイツ診察法第3版 Bates' Guide to Physical Examination and History Taking 13th Edition(訳書)、リン・S.ビックリー、 ピーター・G.シラギ、リチャードM.ホフマン (担当:監修、範囲:日本語版監修)有岡宏子・井部俊子・山内豊明	株式会社メディカル・サイエンス・インターナショナル	2022年9月	
心理と教育	山田 知子	「高齢期の貧困・生活問題研究とその周辺ー1960年代～1990年代前半を中心に」 社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編『戦後社会福祉の 歴史研究と方法ー継承・展開・創造』第2巻(理論・総括)	近現代資料刊行会	2022年10月	
	岩崎 久美子	OECD, <i>Innovative Learning Environments</i> (学習の環境ーイノベティブな実践に向けて)(分担翻訳)	明石書店	2023年3月	
	櫻井 直輝	アカウントビリティを取り戻す：アメリカにおける教師教育改革、木場裕紀、櫻井直輝 (担当:共訳)	東京電機大学出版局	2022年12月	
	進藤 聡彦	応用心理学ハンドブック、応用心理学ハンドブック編集委員会(編) (分担執筆)	福村出版	2022年9月	
	向田 久美子	児童心理学・発達科学ハンドブック、二宮克美、子安増生 (担当:共訳、範囲:子どもと社会経済的地位)	福村出版	2022年5月	
社会と産業	森 津太子	イラストでサクッとわかる認知バイアス：誰もが陥る思考の落とし穴80、池田まさみ、森津太子、高比良美詠子、宮本康司 (担当:監修)	プレジデント社	2023年3月	
	原 武史	鉄道与天皇 日本近代城市的帝国化	上海人民出版社	2023年1月	
	松井 美樹	Operations Management and Strategy in the Era of Technological Revolution: Proceedings of the 6th World Conference on Production and Operations Management - P&OM 2022 -, Jose A. D. Machuca, Yoshiki Matsui, Hirofumi Matsuo, Hiroki Sano, Junichi Tomita	SANKEISHA CO.,LTD	2022年8月	
	人間と文化	滝浦 真人	「させていただく」大研究、椎名美智、滝浦真人 (担当:共編者(共編著者)、範囲:敬意漸減ーすり減って止まない 敬意が引き起こすことー(単著; pp. 95-115)、「させていただく」はなぜー人勝ちしたか？ ーベネファクティブの変遷に見る敬意漸減プロセスー(椎名美智との共著; pp. 277-317))	くろしお出版	2022年12月
	野崎 敏	無垢の歌：大江健三郎と子供たちの物語	生きのびるブックス	2022年8月	
情報		ボリス・ヴィアン『北京の秋』(翻訳)	河出書房新社	2022年8月	
	三輪 眞木子	健康に老いる秘訣：ヘルスリテラシーを高めて健康寿命をのぼそう、 (担当:共著、範囲:編集、第1章、第7章執筆)	三輪 眞木子	2022年11月	
	山田 恒夫	The Open University of Japan, Iwanaga, M. & Yamada, T.	Indonesia: Universitas Terbuka	2022年10月	
		文部科学省CBTシステム(MEXCBT)の開発と活用	明治図書出版	2022年11月	
	自然と環境	加藤 和弘	造園大百科事典(共編著)	朝倉書店	2022年6月
		Rによる数値生態学：群集の多様度・類似度・空間パターンの分析と種組成の多変量解析[原著第2版](監訳・共訳)	共立出版	2023年2月	
		谷口 義明	天文学者とめぐる宮沢賢治の宇宙ーイーハトーブから見上げた夜空、谷口義明、渡部潤一、畑英利	丸善出版	2022年8月
			宇宙を動かしているものは何か	光文社新書、光文社	2022年9月
	公認心理師教育推進室	桑原 知子	心理臨床家の養成「放送大学」(臨床心理士・公認心理師)、大山泰宏、桑原知子	一般社団法人日本心理臨床学会	2022年4月
			「子どもの未来を拓く教育環境の創新を求めてー学校臨床心理士と家庭・学校・地域」	日本臨床心理士資格認定協会	2022年8月

研究成果の発表・普及【論文】

本学の専任教員及び学習センター所長は、各分野・領域における
 新たな発見を生み出している。2022年度に発表された学術研究論文のうち、審査を受け学術雑誌等で公開された論文を紹介する。

2022年度研究成果の発表・普及【論文】				
所 属	氏 名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月
生活と福祉	井出 訓	通所リハビリテーションにおける嚥下障害リスクの把握およびスクリーニングを用いた評価方法の組み合わせについて、古館康司、井出訓	日本摂食嚥下リハビリテーション会誌 26(2) 109-120	2022年9月
	川原 靖弘	Predictive factors associated with outcome in patients six months after mild to moderate aneurysmal subarachnoid hemorrhage: Focus on neuropsychological tests conducted one month after the event, Yukiko Sato, Tomoyuki Kojima, Yasuhiro Kawahara, Shigeki Kobayashi	Interdisciplinary Neurosurgery, Vol.31	2022年11月
	関根 紀子	Effects of point spread function correction and time-of-flight on visual contrast level and pixel values in brain PET images, Yohei Kamikawa, Yukito Yoshida, Yasuhiro Kawahara	Nuclear Medicine Communications, 10.1097	2023年3月
		強度の異なる60秒間の圧迫法が筋硬度に及ぼす影響、竹田雄世、関根紀子	理学療法科学 37(4)	2022年8月
戸ヶ里 泰典	戸ヶ里 泰典	Genome-Wide Association Study Identifies CDKN1A as a Novel Locus Associated with Muscle Fiber Composition, Semenova EA, Zempo H, Miyamoto-Mikami E, Kumagai H, Larin AK, Sultanov RI, Babalyan KA, Zhelankin AV, Tobina T, Shiose K, Kakigi R, Tsuzuki T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Naito H, Burniston J, Generozov EV, Fuku N, Ahmetov II	Cells 11(23) 3910-3910	2022年12月
		Exercise training improves obesity-induced inflammatory signaling in rat brown adipose tissue, Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kobayashi H, Negishi T, Yukawa K, Naito H	Biochemistry and Biophysics Reports 32 101398-101398	2022年12月
	戸ヶ里 泰典	Reliability and validity of the <scp>japanese</scp> version of the <scp>Person - Centered Care Assessment Tool</scp>, Yoshie Yumoto, Natsuko Hroyama, Miki Sasaki, Keiko Fujinami, Saki Otsuka, Taisuke Togari, David Edvardsson, Yasuko Ogata	Geriatrics & Gerontology International 22(4) 344-349	2022年4月
		Socioeconomic Status and the Sense of Coherence among Japanese People Living with HIV, Taisuke Togari, Yoji Inoue, Gaku Oshima, Sakurako Abe, Rikuya Hosokawa, Yosuke Takaku	International Journal of Environmental Research and Public Health 19(13) 7673	2022年7月
心理と教育	岩崎 久美子	Association between nursing practice environment and sense of coherence among staff nurses: A cross-sectional study in Japan, Yasuko Ogata, Kana Sato, Miki Sasaki, Keiko Fujinami, Taisuke Togari	Journal of Nursing Management	2022年7月
		A study on the examination of sense of coherence-related factors in Japanese junior high school students and their mothers, Tomoko Omiya, Naoko Kumada Deguchi, Taisuke Togari, Yoshihiko Yamazaki	Scientific Reports 12(1)	2022年12月
	奈良 由美子	The development and validation of the Japanese version of job satisfaction scale: a cross-sectional study on home healthcare nurses, Yoko Mori, Miki Sasaki, Yasuko Ogata, Taisuke Togari	BMC Research Notes 15(1)	2022年12月
		サイクリストにおけるサイクリングの経験とフロー体験、心理学的レジリエンスの関係、生方剛、谷本龍男、戸ヶ里泰典	日本健康学会誌 89(1)	2023年1月
社会と産業	山内 豊明	COVID-19のリスクコミュニケーションの課題	公衆衛生(医学書院) 86(7) 628-637	2022年7月
		アフターコロナの社会・経済システム、喜多一、出口弘、奈良由美子	社会・経済システム 42 1-41	2023年3月
	岩永 雅也	Effectiveness of a new interactive web teaching material for improving lung auscultation skills: randomized controlled trial for clinical nurses. Shintaro Higashiyama, Koji Tamakoshi and Toyoaki Yamauchi	Nagoya Journal of Medical Science 84(3) 526-538	2022年8月
		国際的動向から見る大学における成人への学習機会提供	高等教育研究 25 109-130	2022年8月
人間と文化	進藤 聡彦	社会教育関係職員の学習需要―経験資本との関係から―、岩崎久美子、赤尾勝己	日本生涯教育学会論集 43 13-22	2022年9月
		放送大学におけるシニア学生への学習環境提供	日本社会教育学会編『高齢社会と社会教育』(日本の社会教育第66集) 164-176	2022年10月
	岩永 雅也	成人の学習と高等教育	高等教育研究 25 11-30	2022年8月
		The Open University of Japan	Open and Distance Education in Asia 99-119	2022年10月
自然と環境	柳沼 良知	アカデミック・ハラスメントの構造、北仲千里、横山美栄子、金子雅臣、進藤聡彦	教育心理学年報 61 304-313	2022年11月
		教授学習心理学研究の対象と方法、渡邊大輔、宇野忍、工藤与志文、進藤聡彦	教授学習心理学研究 18(1) 27-52	2022年12月
	山田 恒夫	ルールの予測機能の教授が課題解決に及ぼす効果―「知識適用における既知性効果」とその解消―、工藤与志文、佐藤誠子、進藤聡彦	教育心理学研究 71(1) 38-50	2023年3月
		橋本 鉦市	『名古屋高等教育研究』第 23 号、361-376 頁	2023年3月
公認心理師教育推進室	丸山 広人	現在大学の広告・広報―2010 年代の HP の内容分析を中心に―	学校健康相談研究 19(1) 77-82	2022年12月
		学級担任との協働―スクールカウンセラーの視点から―	AAOU Journal 17(3) 305-319	2022年12月
	児玉 晴男	Legal issues of the broadcast and simultaneous Internet transmission of open university courses	企業法学研究 11(1) 77-98	2023年3月
		ニューノーマルにおける我が国の環境権の保障	Proceedings of the 29th EurOMA Conference 1-9	2022年7月
群馬SC	松井 美樹	The impact of plant improvement capability on operational performance: The moderating role of manufacturing environment complexity, Ngoc Anh Nguyen, Yoshiki Matsui	Operations Management and Strategy in the Era of Technological Revolution:Proceedings of the 6th World Conference on Production and Operations Management - P&OM 2022 - 258-266	2022年8月
		Supply chain quality integration and sustainability performance: A comparative study between Japan and Vietnam, Minh Hue Nguyen, Anh Chi Phan, Yoshiki Matsui	Operations Management and Strategy in the Era of Technological Revolution:Proceedings of the 6th World Conference on Production and Operations Management - P&OM 2022 - 306-313	2022年8月
	谷口 義明	Supply base reduction, supplier development and information sharing for supply chain performance assessment: An empirical study, Osam Sato, Yoshiki Matsui	Operations Management and Strategy in the Era of Technological Revolution:Proceedings of the 6th World Conference on Production and Operations Management - P&OM 2022 - 586-594	2022年8月
		The impact of psychological safety on plant improvement capability: The moderating role of manufacturing complexity, Anh Ngoc Nguyen, Yoshiki Matsui	Operations Management and Strategy in the Era of Technological Revolution:Proceedings of the 6th World Conference on Production and Operations Management - P&OM 2022 - 586-594	2022年8月
群馬SC	桑原 知子	The Impacts of Personal Traits of Leaders on the Intention to Introduce IOT-Based Products: The Emotional Intelligence Perspective, Manh Dinh Phan, Yoshiki Matsui	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌 12(1) 1-18	2022年8月
		Effect of data sharing in the supply chain on product quality: Mediating roles of JIT delivery and supplier integration, Osam Sato, Yoshiki Matsui	Proceedings of the 53rd Annual Conference of the Decision Sciences Institute 343-359	2022年11月
	工藤 貴子	Supply chain integration and economic performance: empirical evidence from a developing country, Minh Hue Nguyen, Anh Chi Phan, Yoshiki Matsui	Benchmarking: An International Journal 29(9) 2710-2732	2022年11月

2022年度研究成果の発表・普及【論文】

所 属	氏 名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月	
		Moderating Roles of Information Technology Link and Information Sharing in Driving Supply Chain Performance through Supplier Development and Knowledge Absorption: Empirical Evidence from Manufacturing Firms across Countries, Anh Chi Phan, Ha Thu Nguyen, Hao Anh Nguyen, Yoshiki Matsui	E&M Economics and Management 25(4) 118-136	2022年12月	
		Structure of JIT-Based Supplier Integration: Its Antecedents and Consequent, Osam Sato, Yoshiki Matsui	Abstracts, Papers and Proceedings - The 52nd Annual Meeting of the Southeast Decision Sciences Institute 2023 369-382	2023年2月	
	李 鳴	現代的相互会社の本質	法学研究(山本為三郎教授退職記念号) 96(1) 361-387	2023年1月	
	河原 温	中近世ヨーロッパ都市に見る《慈善》と《救貧》 —金澤周作『チャリティの帝国』に寄せて—	三田学会雑誌 115(2) 17-32	2022年7月	
	近藤 成一	史料編纂所の歴史家たち—相田二郎を中心に	小澤実・佐藤雄基編『史学科の比較史』勉誠出版 69-87	2022年5月	
人間と文化	滝浦 真人	Intersection of traditional Japanese honorific theories and Western politeness theories	Yoshiyuki Asahi, Mayumi Usami, Fumio Inoue (Eds.) Handbook of Japanese Sociolinguistics. De Gruyter Mouton. 327-354	2022年4月	
		すり減る敬意と日本語の現在	『コリイカ』(2022年8月号・特集・現代語の世界)青土社	2022年7月	
		Indigenous pragmatic research on Japanese, Tetsuharu Koyama, Jun Sawada, Kaoru Hayano, Sachiko Takagi, Noriko Onodera, Masato Takiura, Hiroaki Tanaka	Xinren Chen and Doreen Dongying Wu (Eds.) East Asian Pragmatics: Commonalities and Variations, pp. 40-66. Routledge. 57-61	2022年8月	
		日本語の敬語と語用論 —敬語の語用論はタメ語の語用論—	『日本語学』41(3) 22-33	2022年9月	
	情報	加藤 浩	Mediating and perspective-taking manipulatives: Fostering dynamic perspective-taking by mediating dialogic thinking and bolstering empathy in role-play and reflection for microteaching. Toshio Mochizuki, Hiroshi Sasaki, Takehiro Wakimoto, Yoshihiko Kubota, Brendan Eagan, Ryoja Hirayama, Yuta Yamaguchi,Natsumi Yuki, Hideo Funaoi, Hideyuki Suzuki, Hiroshi Kato	International Journal of Computer-Supported Learning 17(4) 489-518	2022年12月
	辻 靖彦	コロナ禍のオンライン授業における大学教員の授業効力感に影響する要因の検討、稲葉利江子、高比良美詠子、田口真奈、辻靖彦	日本教育工学会論文誌 46(2) 241-253	2022年4月	
		コロナ禍におけるオンライン授業のICT利用に基づく類型と学生の受講態度との関連、辻靖彦、高比良美詠子、稲葉利江子、田口真奈	日本教育工学会論文誌 46(4) 653-666	2023年2月	
	中川 一史	学習指導要領に基づく思考力・判断力・表現力の自己評価用項目の開発—小中高等学校の学習指導要領を対象として—、勝田浩次、寺嶋浩介、斉田俊平、菊地寛、平田篤史、中川 一史	日本教育工学会研究報告集 2022(2) 156-161	2022年6月	
		協働的な学びの場面においてスライド作成アプリを用いた情報共有の有用性:中学校理科「電流とエネルギー」を対象とした事例研究、北濱康裕、小林祐紀、小澤拓郎、白土瑞樹、西岡遼、中川一史	AI時代の教育論文誌 5 16-21	2022年10月	
	中谷 多哉子	Pattern to Improve Reusability of Numerical Simulation, Junichi Ichimuraz, Takako Nakatani	Proc. of the Joint Conferene on Knowledge Based Software Engineering 2022 (JCKBSE2022), pp.27-37	2022年8月	
		"Supporting Code Review by a Neural Network Using Program Images", Kazuhiko Ogawa, Takako Nakatani	Proc. of the Joint Conferene on Knowledge Based Software Engineering 2022 (JCKBSE2022), pp.69-81	2022年8月	
		"ゲーム要素を取り入れた情報リテラシー教育の提案" 廣瀬司、岡本克也、中谷多哉子	ソフトウェア工学の基礎ワークショップ2022 論文集,日本ソフトウェア科学会,pp.239-240.	2022年11月	
		"再利用性向上を目的とした数値解析ライブラリ構築パターンの提案", 市村純一、中谷多哉子	ソフトウェア工学の基礎ワークショップ2022 論文集, 日本ソフトウェア科学会,pp.221-222.	2022年11月	
		"群ロボット制御用ソフトウェアアーキテクチャの提案", 箕輪知也、 中谷多哉子、滝本宗宏、神林靖	ソフトウェア工学の基礎ワークショップ2022 論文集,日本ソフトウェア科学会,pp.191p-192p.	2022年11月	
		"Pattern to improve reusability of numerical simulation: Object-Action pattern", Jun-ichi Ichimura, Takako Nakatani	Intelligent Decision Technologies, vol.16, no.4, IOS Press, pp.717-723	2022年12月	
		Traverser: A method and a tool to extract user's traverses within web systems from ontology, Takako Nakatani, Kazuaki Sato, Osamu Shigo	Intelligent Decision Technologies, vol.17, No.1, IOS Press, pp.229-242	2023年3月	
	葉田 善章	3軸加速度センサーを用いた指揮法の独習支援システムの開発、安田隆、葉田善章	日本教育工学会論文誌, 46 (Suppl.) ,105-108	2023年2月	
	森本 容介	Moodleを対象としたxAPIのステートメントの設計	情報処理学会論文誌教育とコンピュータ	2023年2月	
	柳沼 良知	Estimating the difficulty of courses from syllabuses, Masako Furukawa, Yoshitomo Yaginuma	IIAI Letters on Informatics and Interdisciplinary Research Vol.001, LIIR036	2022年7月	
		Topic Model Analysis of Japanese Microblog Profile Text, Daiki Sato, Yoshitomo Yaginuma	12th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), pp.677-678	2022年7月	
	山田 恒夫	べた語彙:学習基盤を拡張する国際技術標準 IMS LTI 1.3: 第 1 回 LTI 1.3 の機能と意義、常盤祐司、山田恒夫	情報処理 63(6) 293-297	2022年5月	
	自然と環境	石崎 克也	Dual exponential polynomials and a problem of Ozawa, Heittokangas, J., K. Ishizaki, K. Tohge, Z.-T. Wen	Proc. Royal Soc. Edinb. Sect. A, Math. 152(3) 701-719	2022年6月
		Value distribution of exponential polynomials and their role in the theories of complex differential equations and oscillation theory, Heittokangas, J., K. Ishizaki, K. Tohge, Z.-T. Wen	Bull London Math Soc. 55, 1-77	2022年9月	
	岸根 順一郎	Observation of Collective Resonance Modes in a Chiral Spin Soliton Lattice with Tunable Magnon Dispersion, Y. Shimamoto, Y. Matsushima, T. Hasegawa, Y. Kousaka, I. Proskurin, J. Kishine, A. S. Ovchinnikov, F. J. T. Goncalves, Y. Togawa	Physical Review Letters 128(24)	2022年6月	
		Nonequilibrium chiral soliton lattice in the monoaxial chiral magnet, M. Ohkuma, M. Mito, H. Deguchi, Y. Kousaka, J. Ohe, J. Akimitsu, J. Kishine, K. Inoue	Physical Review B 106(10)	2022年9月	
		Truly chiral phonons in α -HgS, Kyosuke Ishito, Huiling Mao, Yusuke Kousaka, Yoshihiko Togawa, Satoshi Iwasaki, Tiantian Zhang, Shuichi Murakami, Jun-ichiro Kishine, Takuya Satoh	Nature Physics	2022年10月	
		Unveiling Crystal Chirality through Phonon Dispersion	JPSJ News and Comments 20	2023年1月	
		Chiral phonons: circularly polarized Raman spectroscopy and ab initio calculations in a chiral crystal tellurium, Kyosuke Ishito, Huiling Mao, Kaya Kobayashi, Yusuke Kousaka, Yoshihiko Togawa, Hiroaki Kusunose, Jun- ichiro Kishine, Takuya Satoh	Chirality	2023年3月	
	谷口 義明	VizieR Online Data Catalog: The COSMOS2020 catalog, Weaver, J. R., et al.	2022hCat. 22580011W	2022年6月	
		A New Polar Ring Galaxy Discovered in the COSMOS Field, Minoru Nishimura, K. Matsubayashi, T. Murayama, and Y. Taniguchi	PASP, 134, number 1039	2022年9月	
		VizieR Online Data Catalog: SILVERRUSH X, Confirmed LAE galaxies and AGN from HSC, ONO, Y., et al.	2022hCat. 191110078O	2022年10月	
		High Sensitivity observations of water masers in the Seyfert galaxy NGC 1068, Y. Moroshima, H. Sufou, A. Yamauchi, Y. Taniguchi, and N. Nakai, A	2023, PASJ, 75, 71- 81	2023年2月	
	公認心理師教育推進室	桑原 知子	高橋論文に関するコメント — 自己表現としての身体症状 —	上智大学臨床心理研究 45巻 127-138	2023年1月
	群馬SC	工藤 貴子	Theoretical Study of Si/C Equally Mixed Dodecahedrane Analogues, T. Uchiyama, T. Nakamura, M.Hiyama, T.Kudo	Molecules 28(6) 2769-2769	2023年3月

2022年度研究成果の発表・普及【論文】

所 属	氏 名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月
千葉SC	片岡 洋子	ジェンダー・性の多様性と生活綴方	作文と教育 (900) 16-20	2022年10月
		人権の要としての「同意」	925	2023年1月
石川SC	千木 昌人	Synthesis of V-shaped fused phthalonitriles and control of their molecular orientation, Miki Murakami, Kazuya Maeda, Hajime Maeda, Masahito Segi, Taniyuki Furuyama	Tetrahedron Letters 95 153750	2022年4月
		Cationic Axial Ligand Effects on Sulfur-Substituted Subphthalocyanines, Yusaku Ogura, Masahiro Nakano, Hajime Maeda, Masahito Segi, Taniyuki Furuyama	Molecules 27(9) 2766	2022年4月
		Regioselective rearrangement reactions of naphthyl naphthylmethyl ethers by using Lewis acids or UV light irradiation, Hajime Maeda, Saki Nakamura, Taniyuki Furuyama, Masahito Segi	Journal of Molecular Structure 1274 134450	2022年10月
		Synthesis of 3-Oxatricyclo[7.2.0.0]undeca-7,10-dienes through Intramolecular Photocycloaddition Reactions of Alkenes to 1,8-a-Position of Naphthalene Ring, Hajime Maeda, Yuta Kubo, Ryota Nakashima, Kazuhiko Mizuno, Taniyuki Furuyama, Masahito Segi	European Journal of Organic Chemistry 2022(45) e202201051	2022年12月
		(1,6)Pyrenophanes containing crown ether moieties as fluorescence sensors for metal and ammonium ions. Formation of sandwich, dumbbell, and pseudorotaxane complexes, Hajime Maeda, Genki Saito, Taniyuki Furuyama, Masahito Segi	New Journal of Chemistry 47(3) 1388-1400	2023年1月
		Rational design of functionalized near-infrared absorbing phthalocyanines by three-component coupling strategy, Takayuki Iwamoto, Hajime Maeda, Masahito Segi, Taniyuki Furuyama	Journal of Porphyrins and Phthalocyanines 27(1-4) 218-225	2023年1月
岐阜SC	野々村 修一	Development of a Suppression Technique of Potential-Induced Degradation by a Formation of Glass Layer in Si PV Modules, Go Sian Hui, Takahiko Haga, Fumitaka Ohashi, Hiroki Yoshida, Tetsuji Kume, Shuichi Nonomura	MATERIALS TRANSACTIONS 64(1) 165-170	2022年4月
兵庫SC	岡田 修一	Social network and health behaviors among Japanese older adults: a three-wave longitudinal study, Kazuhiro Harada, Kouhei Masumoto, Shuichi Okada	Health Promotion International 38(2)	2023年3月
奈良SC	井上 容子	屋光変動緩和のための人工照明調節方式に関する検討 (その2): 単調な照度変化における室の印象評価、池上陽子、井上容子	日本建築学会環境系論文集 87(798)	2022年8月
		タスク&アンビエント照明において容認される作業面照度に関する研究: 照度の嗜好を考慮した定常応応状態の推定と等容認率線図の提案、丸山悠、井上容子	日本建築学会論文集 87(801)	2022年11月
和歌山SC	宗森 純	振動とベルチ素子を用いたオンライン対戦ゲーム向け心拍伝達ウェアシステム HRTASの開発、宗森純、堤野理貴、伊藤淳子	情報処理学会論文誌 64(2) 548-557	2023年2月
		脈拍データをを用い風で刺激する脈拍上昇抑制システムの振り運動シミュレーションへの適用、宗森純、新原弘明、伊藤淳子	情報処理学会論文誌 64(2) 521-528	2023年2月
広島SC	吉村 幸則	Modulation of the innate immune system by lipopolysaccharide in the proventriculus of chicks inoculated with or without Newcastle disease and infectious bronchitis vaccine, Yoshimura Y, Kondo H, Takamatsu K, Tsugami Y, Nii T, Isobe N	Poultry science101(4) 101719-101719	2022年4月
		Effects of Newcastle Disease/Infectious Bronchitis Vaccine and Feeding Yeast Products on the Innate Immune System in the Proventriculus and Ileum of Broiler Chicks, Yoshimura Y, Nii T, Isobe N	The Journal of Poultry Science 60(1) n/a-n/a	2023年1月
高知SC	深見 公雄	Treatment and Effective Removal of Metal Fine Particles from Waste Cutting Fluids by Flotation via Microbubbles and Skimming, Fukami, K., N. Ogata, K. Yamamoto, K. Kawamura, I. Mitani, and M. Sakamoto	Water 14(16) 2575-2586	2022年8月

研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

2022年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所 属	氏 名	テーマ	主催等	開催年月日
生活と福祉	川原 靖弘	Detection of Factors Affecting Cognitive Function in Environmental Sounds	Sound and Music Computing 2022	2022年6月1日
	関根 紀子	Impact of the COVID-19 pandemic on learning awareness among students enrolled at the Open University of Japan	The 35th AAOU annual Conference	2022年11月3日
	戸ヶ里 泰典	一般労働者における組織SOC(sense of coherence)尺度の適用可能性—インターネット調査データからの検討、戸ヶ里泰典、竹内朋子	第30回日本健康教育学会学術大会	2022年7月23日
		大学生における精神的フィットネスの関連要因の検討—社会的スキルと情緒的支援ネットワークに着目して—、水野陽介、水野哲也、谷木龍男、戸ヶ里泰典	第30回日本健康教育学会学術大会	2022年7月23日
		大学生における健康に関連する身体的フィットネスと精神的フィットネスの関連性、水野哲也、水野陽介、谷木龍男、戸ヶ里泰典	第30回日本健康教育学会学術大会	2022年7月23日
	奈良 由美子	シンポジウム1「生きづらさを抱えた思春期への支援」思春期への支援における健康生成論とSOCの可能性	第41回日本思春期学会総会・学術集会	2022年8月21日
		シンポジウム5「日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 検査+Condom、U=U、PrEP -これから考えていくべきことは何か?」一般市民のHIV陽性者に対するパブリックスティグマとU=Uの知識	第36回日本エイズ学会学術集会・総会	2022年11月18日
		シンポジウム「療養支援 セクシャルマイノリティの心理的背景と心理・社会的支援」HIV Futures Japan 第3回調査にみるセクシャルマイノリティのメンタルヘルスの実態	第36回日本エイズ学会学術集会・総会	2022年11月20日
		HIV陽性者における市販薬乱用の実態と背景、第3回Futures Japan調査より、戸ヶ里泰典、井上洋土、大島岳、他	第36回日本エイズ学会学術集会・総会	2022年11月20日
		リスクコミュニケーションの基本とリスクコミュニケーション小委員会の活動について	日本原子力学会リスク部会・土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション小委員会合同講演会	2022年4月11日
		ヒトのレジリエンスの現代的意義—共感とリスクコミュニケーションの観点から—	日本リスクマネジメント学会 2022年度 関西部会	2022年6月11日
		新型コロナワクチンをめぐる市民の意識とリスクコミュニケーション—期待と不安のモザイク—	第37回 日本環境感染学会総会・学術集会 [リスクコミュニケーション委員会] [ワクチンに関するコミュニケーションについて考える]	2022年6月16日
		安全・安心とリスクコミュニケーション —COVID-19対策を例に—	健康管理研究協議会 第60回総会	2022年10月29日
		「ウィズ・コロナ」の問い直し観点から(企画セッション「ウィズ・コロナ」における社会・経済システム)	社会・経済システム学会 第41回大会	2022年10月30日
		Impact of the COVID-19 pandemic on learning awareness among students enrolled at the Open University of Japan	The 35th AAOU annual Conference	2022年11月3日
		原子力安全設計における専門家・技術者とリスクコミュニケーション—土木学会原子力土木委員会を対象としたデルファイ調査—	日本リスク学会年次大会	2022年11月13日
		People's engagement in pandemic: Perspectives on risk communication	The 9th NIKKEI FT Communicable Diseases Conference	2022年11月15日
		ちばの「危機管理」—リスクコミュニケーションの視点から—	ちば産学官連携プラットフォームちば学リレー講座	2022年11月26日
		市民とのリスクコミュニケーション —リスク情報と意見の共有・共考をめざして—	日本原子力学会リスク部会シンポジウム	2022年12月16日
		リスクコミュニケーションの基本と要点	東京都病院協会 令和4年度幹部職員セミナー	2023年2月17日
		コロナ禍におけるリスクコミュニケーションと生活者の視点 —市民対話の声をつなぐ—	国立環境研究所 社会対話・協働推進 オフィス研究集会 エビデンスは棍棒ではない3「エビデンスと社会とわたし」とその「隙間」を考える	2023年2月20日
		学校における地震避難訓練の歴史と現状に関する一考察、甲斐田庸一、奈良由美子	日本災害情報学会 第26回学会大会	2023年3月21日

2022年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所 属	氏 名	テーマ	主催等	開催年月日
心理と教育	山田 知子	婦人方面委員とその周辺	東京市方面委員制度研究会	2022年12月17日
	岩崎 久美子	Effectiveness of Commissioned Social Education Directors in Japan, Fuyuko Kanefuji, Kumiko Iwasaki, Makiko Ito	Association(AERA) Annual Meeting, 2022 American Educaional Research The World Education Research Association (WERA) Focal Meeting	2022年4月26日
		社会教育主事のキャリアは社会デザインに寄与するか	令和4年度学びを支える人材育成推進事業 社会教育推進研修会(仙台市教育局生涯学習支援センター)	2022年6月16日
		地域における生涯学習支援の重要性と方法	船橋市教育委員会ふなばし市民大学校	2022年10月16日
		成人学習・教育の今日的意義:社会経済的需要と個人のウェルビーイング	日本生涯教育学会第43回大会 生涯学習政策研究フォーラム	2022年11月26日
		調べる学習コンクールと学校図書館	東京都杉並区学校司書研修会	2023年3月1日
		なぜ国際バカロレア教育が日本で必要なのか	文部科学省IB教育推進コンソーシアム「第8回国際バカロレア推進シンポジウム」	2023年3月26日
	櫻井 直輝	小規模学校における変革に向き合う教師の行為と認識－Ecological Teacher Agencyの観点から－、望月耕太、櫻井直輝、木場裕紀、梅澤咲 学校の働き方改革に対する教職員の意識分析、小川正人、川上泰彦、荒井英治郎、神林寿幸、櫻井直輝、雪丸武彦	日本教師教育学会第32回大会	2022年9月17日
	進藤 聡彦	シンポジウム 教授学習心理学研究の対象と方法、渡邊大輔、宇野忍、工藤与志文、進藤聡彦	日本教育行政学会第57回大会	2022年10月16日
		ルールの2つの機能の理解、進藤聡彦、工藤与志文、佐藤誠子	日本教授学習心理学会第18回年会	2022年6月25日
ルール適用においてカテゴリ情報はなぜ無視されるのか、工藤与志文、佐藤誠子、進藤聡彦		日本教授学習心理学会第18回年会	2022年6月26日	
社会と産業	児玉 晴男	シンポジウム ルール適用においてカテゴリ情報はなぜ無視されるのか、工藤与志文、佐藤誠子、進藤聡彦	日本教育心理学会第64回総会	2022年8月10日
		シンポジウム 社会的包摂に向けた社会教育の果たす役割、進藤聡彦、佐藤悦子、長池伸子、斎藤和真	第53回関東甲信越静社会教育研究大会	2022年11月10日
	原田 順子	アフターコロナ(ニューノーマル)におけるわが国の環境法の諸問題－環境法制における環境権の保障－	企業法学会2022年度春期総会・研究報告会(筑波大学東京キャンパス文京校舎)	2022年7月10日
		19世紀の港と情報: 新聞・郵便・外国人の視点から	日本港湾経済学会60周年記念全国大会－基調講演(於:波止場会館)	2022年9月8日
	松井 美樹	Supply Chain Integration and Economic Performance: A Comparative Study, Minh Nguyen, Anh Phan, Yoshiki Matsui	The 32nd Annual Conference of the Production and Operations Management Society	2022年4月23日
		Relationship between information linkage and supply chain performance in manufacturing plants across Asian countries: Empirical evidences from China, Korea, Japan, Taiwan, and Vietnam, Anh Chi Phan, Ha Thu Nguyen, Nguyet Thi Minh Duong, Yoshiki Matsui	The 6th World Conference on Production and Operations Management - P&OM 2022 -	2022年8月23日
		Humanitarian supply chain standards against epidemic disasters: the case of COVID-19 in Japan, Minh Hue Nguyen, Dang Hai Luu, Yoshiki Matsui	The 6th World Conference on Production and Operations Management - P&OM 2022 -	2022年8月24日
		Striving for improvements in a complex world: The impact of psychological safety on manufacturing plant improvement capability, Nguyen Ngoc Anh, Yoshiki Matsui	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会第14回 全国研究発表大会	2022年12月3日
		Effect of JIT delivery and supplier integration on supplier performance: An empirical study, Osam Sato, Yoshiki Matsui	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー 学会第14回 全国研究発表大会	2022年12月3日
		DX研究の最新動向:国際学会参加報告、松井美樹、辺成祐、富田純一	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会第14回全国研究発表大会	2022年12月3日
人間と文化	李 鳴	保険法と市民生活－生命保険と相続を中心に(その2)	放送大学ライブラリー講演会	2023年3月11日
	魚住 孝至	日本文化・思想において野口体操を考える	野口三千三没後25年記念講演(東京国立博物館応挙館)	2022年10月10日
		芭蕉『おくのほそ道』の真価を考える	埼玉県川口市幸栄公民館(4回講義)	2022年10月16日～11月6日
	大橋 理枝	松尾芭蕉の俳諧の思想－『おくのほそ道』を中心に	日独文化研究所(オンライン6回講義)	2023年2月15日～3月22日
		ビートルズ de 英文法・ライブ!	放送大学東京文京学習センター	2022年7月30日
	近藤 成一	世界を知ろう!～持続可能な多文化共生社会に向けて～第1回 異文化間・入門編 稲城市教育委員会教育部生涯学習課 市民企画提案による公民館主催講座	稲城市立第三公民館	2022年12月8日
		史料を読むということ－北条義時から考える－	宮城歴史科学研究会第25回歴史学入門講座(オンライン)	2022年5月14日
		北条義時と信濃－「鎌倉殿の13人」に寄せて－	長野県立長野高校金鶏会館(「いま明かされる古代48&中世・近世」第314回講演)	2022年5月21日
		北条義時の妻と子－「鎌倉殿の13人」に寄せて－	放送大学千葉学習センター公開講演会	2022年6月18日
		古文書にさぐる土佐国の中世	放送大学高知学習センター・オーデシア高知図書館 共催公開講演会(オーデシア高知図書館4階ホール)	2022年9月3日
北畠親房と常陸国		放送大学茨城学習センター・茨城県立図書館主催放送大学ライブラリー講演会(茨城県立図書館視聴覚ホール)	2022年9月17日	
鎌倉幕府の将軍と執権		放送大学千葉学習センター公開講演会	2022年9月24日	
中野能成と北条氏		長野県立長野高校金鶏会館(「いま明かされる古代49&中世・近世」第320回講演)	2022年10月22日	
北条義時を継ぐもの		放送大学渋谷学習センター・目黒区教育委員会連携講座(放送大学渋谷学習センターからオンライン)	2022年12月10日	
淹浦 真人		東北大学高度教養教育・学生支援機構 教育関係共同利用拠点提供プログラム PDセミナー	2022年4月21日	
鶴見 英成	Reappraising the Chronology of the Initial Period (ca. 1700-800 BC) in the Central Andes, Tsurumi, Eisei, Jason Nesbitt, Yuichi Matsumoto	87th Annual Meeting of the Society for American Archaeology	2022年4月1日	
	景観分析の視点からアンデス文明のモニュメント建築の成立と変遷を考える	日本考古学協会第88回総会・研究発表会	2022年5月29日	
	X線CTによる笛吹きボトル土器の構造の分析、吉田晃章、鶴見英成、真世士マウ、喜多理王、栗野若枝	古代アメリカ学会第27回研究大会・総会	2022年12月3日	
	野崎 歓	触れるのが怖い——COVID-19とフランス現代小説	日本英文学会特別シンポジウム(ポスト)(ウィズ)コロナ時代の英語英米文学研究デジタル・ヒューマニティーズに向けて	2022年5月22日
	日本の学生が選ぶゴンクール賞 第1回を開催して－報告と検証	ゴンクール賞日本委員会、日仏会館共催 ゴンクール賞日本シンポジウム	2022年9月22日	
	美女と野獣の系譜学	上智大学ヨーロッパ研究所	2023年1月17日	
	翻訳と教養 翻訳の未来(岩野卓司との対談)	明治大学リバティアカデミー	2023年1月21日	
	『星の王子さま』の問いかけ: サン＝テグジュペリの戦い	放送大学新潟学習センター主催オンラインシンポジウム	2023年2月4日	
	『星の王子さま』の祈り: サン＝テグジュペリの時代	出版文化産業振興財団主催オンライン講演会	2023年2月11日	
	フランス文学から世界文学へ	杉並区立立宮前図書館開館50周年記念講演会	2023年2月26日	
	第7回JLPP翻訳コンクール記念対談、野崎歓、アンヌ＝バヤール・坂井	文化庁	2023年2月26日よりweb配信	

2022年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所 属	氏 名	テーマ	主催等	開催年月日
情報	青木 久美子	世界をつなぐ言葉(菅原百合絵との対談)	B & B書店	2023年3月6日
		華語文学の新しい風	神戸大学	2023年3月11日
		第1回日本の学生が選ぶゴンクール賞 記念講演(小野正嗣との対談)	公益財団法人早川清文学振興財団	2023年3月14日
		Online Universities in Japan and Future of Higher Education	2022 Lifelong Learning for Future of Education Conference	2022年9月27日
		A Framework of Learning Ecosystems for the Future	2022 6th International Conference on Education and E-Learning (ICEEL 2022)	2022年11月21日
		Augmented Reality and Artificial Intelligence in Education	2022 6th International Conference on Education and E-Learning (ICEEL 2022)	2022年11月22日
	浅井 紀久夫	The Roles of Synchronicity in Distance Education in Japan: The Case of Open University of Japan	2022 6th International Conference on Education and E-Learning (ICEEL 2022)	2022年11月23日
		本学におけるライブ Web 授業の発展をめざして	放送大学FD講演会	2023年3月22日
		Classification Performance of Transfer Learning in Estimating Hand Gesture from Arm's sEMG Signals	International Conference on Machine Learning and Human-Computer Interaction	2023年3月26日
	辻 靖彦	DXで高等教育・経営はどう変わるか	EduTech Japan 2022 パネルディスカッション	2022年8月25日
		高等教育機関におけるICT利活用の現状と展望 ～2020年度調査の分析結果から～	大学ICT推進協議会年次大会企画セッション	2022年12月15日
	中谷 多哉子	「知見マップ」構築を目的としたプログラミング教育実践調査－学習目標からみた考察－(発表者:山本樹)	電子情報通信学会教育工学(ET)研究会	2023年3月14日
		対面講義におけるICT利用方法の類型化とコロナ禍前後の比較	第29回大学教育研究フォーラム	2023年3月15日
		コロナ禍における強制的なICT 利用によって大学教員のICTに対する意識は変化したのか(発表者:田口真奈)	日本教育工学会2023年春季全国大会	2023年3月26日
		要求工学の適用プロセス	情報処理学会要求工学ワークショップ in 富山	2022年5月26日
	葉田 善章	THE IBT TRIALS FOR 200,000 EXAMINATIONS	情報処理学会要求工学ワークショップ in 徳島	2022年10月21日
		教材素材アーカイブシステムの活用を考慮した教材制作の改善に関する検討	日本教育工学会 2023年春季全国大会(第42回大会)	2023年3月26日
	森本 容介	xAPIのLRSを用いたデータ集計の実践	電子情報通信学会2023年総合大会講演論文集 情報・システム講演論文集I	2023年3月
	山田 恒夫	Implementation of a digital credential ecosystem for informal education at the Open University of Japan, Yamada, T, Fushimi, K, Terada, S, Fujimoto, Y, Hata, T	AAOU Annual Conference 2022 (Cejju, Korea).	2022年11月3日
		大学ICT推進協議会の国際性(国際連携室企画セッション[EDUCAUSE 年次カンファレンス 2022 参加報告])	大学ICT推進協議会2022年度年次大会(東北大学)	2022年12月13日
	自然と環境	OERとは何か:日本における現状 (AXIES学術・教育コンテンツ共有流通部会(CSD)企画セッション「教育コンテンツ共有の課題と将来:OERと授業目的公衆送信補償金制度」)	大学ICT推進協議会2022年度年次大会(東北大学)	2022年12月15日
		国際ボランティア学会のデジタルバッジについての討論会 ―ボランティア学習やボランティア活動の品質保証のために―、山田恒夫、林薫、中村安秀	国際ボランティア学会第24回学術大会(文教大学東京あだちキャンパス)	2023年2月18日
		遠隔教育におけるネットワーク利用によるリモート実験室:走査型電子顕微鏡実験の実施例	日本地質学会第129年学術大会	2022年9月4日
		Usefulness of rivers as movement corridors for waterbirds in the urban area of Tokyo, Japan, Shiori Takeshige, Kazuhiro Katoh	International Ornithological Congress(オンデマンド配信) 2022年8月15日～2022年8月19日	2022年8月15日～2022年8月19日
	加藤 和弘	都市における水鳥の生息地や移動空間として利用される河川の特徴、竹重志織、澤祐介、加藤和弘	ELR2022(日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学学会3学会合同大会)	2022年9月22日
		里地里山ではなぜ生物が多様なのか	広島修道大学健康栄養学科2022年度学術講演会(オンデマンド配信) 2022年11月28日～2022年12月26日	2022年11月28日～2022年12月26日
		都市における水鳥の生息地・移動コリドーとして機能する河川の条件の検討、竹重志織、澤祐介、島谷健一郎、加藤和弘	日本生態学会第70回全国大会	2023年3月17日
		都市における水鳥の生息地・移動コリドーとして機能する河川の条件の検討、竹重志織、澤祐介、島谷健一郎、加藤和弘	東京大学本館観測所公開講演会、本館文化公演文化ホール	2022年8月7日
	谷口 義明	銀河鉄道に乗って	さいたま市宇宙劇場プラネタリウム	2023年2月4日
		宮沢賢治と一緒に銀河鉄道に乗ろう		
	橋本 健朗	CN人材育成事例 放送大学、近藤智嗣、橋本健朗、上妻賢太郎、相良たまみ	カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション 第6回全体会合	2022年4月27日
		放送大学でするキャリアアップ	ナノ学会 第20回大会 若手研究者のキャリアを考えるシンポジウム	2022年5月21日
	安池 智一	超原子価ラジカルの溶媒和クラスター-NH ₄ (NH ₃) _n , H ₃ O(H ₂ O) _n の反応性に関する理論研究、橋本健朗、下里卓、大極光太	第16回 分子科学討論会 2022 横浜	2022年9月22日
		Theoretical Study on Solvation Clusters of NH ₄ and H ₃ O	3rd International Symposium of JSPS Core-to-Core Program on "Molecular Recognition Mechanism between Flexible Molecules"	2022年9月29日
		放送大学にふさわしいリメディアル教育の研究、橋本健朗、宮本陽一郎、芝崎順司、根原性奈子、関戸智大、近藤智嗣、菊川律子	学習教育戦略研究所研究報告会	2023年3月10日
		グラフェンによるインジウム超薄膜の構造制御と深紫外プラズモン応答、長塚直樹、渡邊一也、安池智一	第16回分子科学討論会(慶應義塾大学)	2022年9月1日
	公認心理師教育推進室 桑原 知子	グラフェン上のC60/Ag共吸着系の光学応答、吉田龍矢、渡邊一也、安池智一	第16回分子科学討論会(慶應義塾大学)	2022年9月1日
		局在プラズモンナノキャピティを用いた化学反応制御	第16回分子科学討論会(慶應義塾大学)	2022年9月1日
		塩水中のステアリン酸自己組織化膜に及ぼす有機溶剤の影響、平野奨、瀬井達也、安池智一	第73回コロイドおよび界面化学討論会(広島大学)	2022年9月1日
		複素吸収ポテンシャルの自己エネルギーに基づく構築、今村洗輔、安池智一、佐藤啓文	凝縮系の理論化学2023	2023年3月1日
	群馬SC	局在プラズモンナノキャピティを用いた化学反応制御	凝縮系の理論化学2023	2023年3月1日
		ワークショップ講師「教育現場における「光」と「影」―教師の傷つき、SCの無力感―	日本ユング心理学会 第10回大会	2022年6月4日
		心理療法のなかで、人はいかに箱庭と「出会う」のか	日本箱庭療法学会2022年度第1回全国研修会	2022年7月17日
		ワークショップ講師「教育現場における「光」と「影」―教師の傷つき、SCの無力感―(2)	日本ユング心理学会研修会	2022年9月11日
	障がい学生支援相談室 角田 哲哉	指定討論者:「恨み抜くことで自身を守った思春期男子との心理面接―描画、語りによるイメージの展開を通して(発表者:薬山慧章)」	日本心理臨床学会第41回大会	2022年10月2日
		ワークショップ講師「箱庭や夢などの「表現」とクライアントとの関係について	日本箱庭療法学会	2022年10月15日
		指定討論:私たちにとって「リアリティ」とはなにか? ―空間・体験・ところからみる深層と真相―	日本箱庭療法学会第35回大会	2022年10月15日
		指定討論者:「クライアントの内観にセラピストの「内観作品」が奏功した内観療法事例(発表者:橋本俊之)」	日本箱庭療法学会第35回大会	2022年10月16日
	群馬SC	箱庭のもつ「力」について考える	日本箱庭療法学会2022年度第2回全国研修会	2023年2月19日
		箱庭療法における、イメージや物語のもつ「力」について	日本箱庭療法学会第4回オンライン研修会	2023年3月19日
		学習障害がある児童生徒の理解と支援	四街道市特別支援教育研修会	2022年8月25日
		炭素・ケイ素半数混合ドデカヘドラン類似体に関する理論的研究、内山保、中村泰司、榎山みやび、板橋英之、工藤貴子	第16回分子科学討論会	2022年9月19日
	群馬SC	コンピュータで探る分子の個性	サイエンスカフェ in 桐生(群馬大学と桐生市の連携事業)	2022年10月8日
		Theoretical Study of Si/C equally mixed dodecahedrane analogues, T. Uchiyama, T. Nakamura, M. Hijama, H. Itabashi and T. Kudo	8th Asian Silicon Symposium	2022年10月28日
		炭素・ケイ素半数混合ドデカヘドラン類似体に関する理論的研究、内山保、中村泰司、榎山みやび、板橋英之、工藤貴子	第26回ケイ素化学シンポジウム	2022年11月11日
	群馬SC			
	群馬SC			
	群馬SC			
	群馬SC			

2022年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所 属	氏 名	テーマ	主催等	開催年月日
石川SC	千木 昌人	企業の社員教育に放送大学を活用!	第119回金沢市異業種ビジネスサロン	2022年6月23日
		ルイス酸を用いるアリールメチルビニルエーテルの芳香族転位反応、忠谷悠史、古山深行、千木昌人、前多馨	2022年度有機合成化学北陸セミナー	2022年10月7日
奈良SC	井上 容子	サブアトロアノンの置換基効果を活用したナノスケール物性制御、小倉佑作、田中佐紀、小笠原萌、前多馨、千木昌人、浅川泰、古山深行	第49回有機典型元素化学討論会	2022年12月9日
		加齢に伴う視覚特性の変化に配慮した照明の適正化に関する研究 その1 照度・色温度単独変化における照明の変動に対する不快率の検討、萩尾みなみ、許載永、井上容子、鈴木圭、井上魁流、石原万葉	日本建築学会近畿支部研究報告集 第62号・環境系	2022年6月25日
		加齢に伴う視覚特性の変化に配慮した照明の適正化に関する研究(その1) 照度・色温度単独変化における照明の変動に対する不快率の検討、井上魁流、許載永、井上容子、鈴木圭、石原万葉、萩尾みなみ	日本建築学会2022年度大会 学術講演梗概集D-1 環境工学 I	2022年9月1日
		加齢に伴う視覚特性の変化に配慮した照明の適正化に関する研究(その2) 照度・色温度同時変化における照明の変動に対する不快率の検討、鈴木圭、許載永、井上容子、井上魁流、石原万葉、萩尾みなみ	日本建築学会2022年度大会 学術講演梗概集D-1 環境工学 I	2022年9月1日
		年齢層と生活行為に配慮した照明の適正化に関する研究 (その4)照度・色温度単独変化おける変化比と変化速度に対する不快率の年齢層比較、沈京如、許載永、井上容子、中村彩乃、鈴木圭、井上魁流、石原万葉、萩尾みなみ	2022年度(第55回)照明学会 全国大会講演論文集	2022年9月21日
		年齢層と生活行為に配慮した照明の適正化に関する研究 (その5)照度・色温度同時変化おける変化比と変化速度に対する不快率の年齢層比較、中村彩乃、許載永、井上容子、沈京如、鈴木圭、井上魁流、石原万葉、萩尾みなみ	2022年度(第55回)照明学会 全国大会講演論文集	2022年9月21日
広島SC	吉村 幸則	Effects of Chronic Intestinal Inflammation Caused by Dextran Sodium Sulfate on Function of Egg Production in Laying Hens, Nii T, Bungo T, Isobe N, Yoshimura Y	26th World's Poultry Congress, (Paris, France)	2022年8月1日
		Influence of sodium acetate and sodium butyrate on tight junction barrier and antimicrobial component production in goat mammary glands, Tsugami Y, Nii T, Yoshimura Y, Isobe N	19th AAAP Animal Science Congres (Jeju, Korea)	2022年8月1日
高知SC	深見 公雄	海のプラスチック問題を考える ～悪影響の原因とメカニズム、そしてこれからの動き～	放送大学高知学習センター公開講演会、土佐市(高知県)	2022年8月7日
		土佐湾と黒潮の生態系および その食物連鎖を考える ～海の“砂漠”黒潮が豊かさをもたらす理由～	カツオ県民会議 資源調査・保全分科会 オンラインミーティング	2022年9月21日

2022年度研究成果の発表・普及【受賞】

所 属	氏 名	受賞内容	受賞年月
心理と教育	櫻井 直輝	地方教育行政とその空間 : 分権改革期における教育事務所と教員人事行政の再編 学会賞、本多正人、川上泰彦、小川正人、植竹丘、櫻井直輝	2022年10月
社会と産業	原田 順子	『海からみた産業と日本: 海事産業と地球の未来』(放送大学教育振興会、2022年) 日本港湾経済学会(北見俊郎)賞-著書の部	2022年9月
情報	浅井 紀久夫	ベスト・プレゼンテーション賞 国際会議 MLHMI 2023、(セッション4)	2023年3月
	中谷 多哉子	The IBT Trials for 200,000 Examinations 最優秀実践論文賞	2022年11月
北海道SC	山田 義裕	『いま私たちをつなぐもの―拡張現実時代の観光とメディア』(弘文堂) 学会賞 観光著作賞(学術)	2022年5月
広島SC	吉村 幸則	家禽の生殖及び感染防御機能に関する研究の推進と後進の育成 2022年度日本畜産学会功労賞	2022年9月

2022年度研究成果の発表・普及【その他】

所 属	氏 名	題名	誌名	出版年月
生活と福祉	戸ヶ里 泰典	思春期の「生きづらさ」への支援における健康生成論・Sense of Coherenceの可能性	思春期学	2023年3月
心理と教育	岩崎 久美子	社会教育関係職員のキャリア形成ー経験と満足度ー	社会教育	2022年4月
		生き残りかけた「学び直し」の時代:個人と組織に求められる姿勢とマインド	先端教育	2022年10月
		ヘルス・プロモーティングに向けた大学全体の取り組みーブリティッシュ・コロンビア大学	文部科学教育通信	2023年3月
		学生に成功をもたらすための取り組みーカリフォルニア大学サンタクルーズ校	文部科学教育通信	2023年3月
社会と産業	森 津太子	バイアスの心理学、池田まさみ、森津太子、高比良 美詠子、宮本康司	Newton 2023年2月号	2022年12月
	白鳥 潤一郎	「三重苦」に直面する日本のエネルギー安全保障	三田評論	2022年7月
		改めて問われる「資源小国」日本の覚悟――エネルギーが「武器」となる世界で	中央公論	2022年8月
		Japanese Energy Security Is Facing Three Challenges	Discuss Japan	2022年9月
人間と文化	山岡 龍一	書評「政治学への思想史研究の貢献 上村剛「権力分立論の誕生――ブリテン帝国の『法の精神』受容」	『政治思想研究 新時代のデモクラシー』	2022年5月
	河原 温	ブルゴーニュの宮廷	ハプスブルク事典	2023年1月
	滝浦 真人	語用論から見た日本語の姿 一知らずに使っている言葉の癖を知りたいー	AJALT	2022年6月
		「女たち」による小説の再生 : 工藤庸子「大江健三郎と「晩年の仕事(レイト・ワーク)」」	群像	2022年6月
	野崎 敏	友情の人ドナルド・キーン	すばる	2022年7月
		『独り舞』解説	李琴峰「独り舞」光文社文庫	2022年7月
		李琴峰のキャリアを振り返って(李琴峰との対談)	李琴峰「透明な膜を隔てて」光文社	2022年8月
		ジャン＝リュック・ゴダール追悼	読売新聞	2022年9月
		『ブルースト 読書の喜び』解説	保井瑞穂「ブルースト 読書の喜び」ちくま学芸文庫	2022年9月
		野崎敏「無垢の歌」:“隣”の大江健三郎 トークイベント載録	週刊読書人	2022年10月
		精神刺激し作品に息吹	『よみがえる森鷗外』毎日新聞社	2022年12月
		小説は写真のごとくに――フランス文学と写真の緊密な仲	『写真』ふげん社	2023年1月
		愛の天使はなぜ「素っ裸」か――ルーヴル美術館展「愛を描く」	読売新聞	2023年2月
		『うけいれるには』解説	クララ=デュボン「うけいれるには」早川書房	2023年3月
		ルノワールと生の輝き――『どん底』の魅力	『どん底 4Kレストア版』パンフレット(川崎市アートセンター)	2023年3月
		サンタクロースの秘密	『何げなくて恋しい記憶』暮しの手帖社	2023年3月
		『ジャン・クリストフ』との出会い	ロマン・ロラン「ジャン・クリストフ物語」水声社	2023年3月
		PICK UP MOVIE	芸術新潮 2022年4月～2023年3月(毎月連載)	2023年3月
情報	辻 靖彦	「高等教育機関等におけるICT利活用に関する調査研究」2020年度報告書(速報版)	大学ICT推進協議会 ICT利活用調査部会	2022年7月
		研究プロジェクト紹介:大学生を対象としたデータサイエンスに関する数学的基礎能力の調査研究	教育システム情報学会誌	2022年10月
自然と環境	中谷 多哉子	《特集》AIの品質保証ー編集にあたってー、中島農、中谷多哉子、滝澤真一郎	情報処理	2022年10月
	岸根 順一郎	On the Definition of Chirality and Enantioselective Fields, Jun-ichiro Kishine, Hiroaki Kusunose, Hiroshi M. Yamamoto	ISRAEL JOURNAL OF CHEMISTRY	2022年12月
	谷口 義明	俳句に見る宇宙	天文月報、2022年9月号、585-592頁、日本天文学会	2022年9月

国際交流への取り組み

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による閉塞感から徐々に抜け出し、世界各国で入出国の規制や行動制限が緩和され、従来のような海外渡航を伴う国際会議への参加や調査訪問等が再開された。本学も加盟団体による国際会議に現地参加したり、協力交流協定を締結している海外の大学からの調査訪問団の受け入れや式典への参加に取り組んだ。

モンゴル国立大学創立80周年記念式典への参加

2022年10月4日～6日にかけて、モンゴル・モンゴル国立大学（NUM）創立80周年記念式典が開催され、本学からは、山田恒夫学長補佐・国際交流委員長、奈良由美子教授（生活と福祉コース）が参加した。

NUMは、1942年にモンゴル国ではじめての国立総合大学として創設され、現在は6学部を設置、約2万2千人の学生が所属しており、また近年は通信教育、遠隔教育の取り組みも進めている大学である。本学とNUMは2019年10月に共同研究や教職員の交流、教材の共同開発や交換等を視野に入れた交流協定を締結し、以来、関係性を強化してきた。

記念式典は10月5日、モンゴル国会議事堂（Parliament House）にて、大学教職員、卒業生、国内外の多数の招待者の出席の下で開催された。また、式典前後には関連行事として、ウランバートル市

さらには在外邦人等の受け入れに向けた検討を引き続き進めており、「在外邦人受入れのためのニーズ調査」の次の段階となる「在外邦人向けのモニター調査」の準備を進める等、本学の国際交流事業は、コロナ禍以前の活動を再開するとともに将来の可能性に向けて取り組んだ一年となった。

内の視察、草原地帯における人々の暮らしやモンゴルの伝統文化等の紹介プログラムが設けられ、モンゴルの現在と歴史に触れることができる、大変充実した3日間のプログラムが開催された。



式典及び関連行事への参加により、両大学がこれからも手を携え、さらなる活発な交流を重ね、互いに進化していくことが期待される。

Ecosystem for Informal Education at Open University of Japan”との題目で、生涯学習者の視点から電子履修証明（デジタルクレデンシャル）の在り方に焦点をあて、インターネット配信公開講座（AOBA）等での利用を想定した秘匿型電子証明書やカリキュラム・シラバスデータベースの概念実証（Proof of Concept）モデルを紹介した。また、山田教授は別の分科会で座長を務め、分科会運営の一翼を担った。

中谷多哉子教授は、“The IBT Trials for 200,000 Examinations”の題目で、今年度本学で導入したIBT（Internet-Based Testing）の実施について、サーバー負荷を軽減するために教職員と学習センターが一丸となって様々な取り組みを行った事例を発表した。中谷教授の発表は、大会期間中に行われた論文発表の審査の結果、Best Practice Awardの金賞を受賞した。

関根紀子教授は、“Impact of the COVID-19 pandemic on learning consciousness among students enrolled at the Open University of Japan”の題目で、2021年夏および2022

年冬に放送大学学園学習教育戦略研究所の研究課題として実施した学生アンケート調査の結果のうち、学習意欲や本学に対する満足度の変化について発表した。

韓国放送通信大学校（KNOU）の調査訪問団来訪

2022年11月11日及び15日に、本学が協力交流協定を締結している韓国放送通信大学校（KNOU）のデジタルメディアセンターより、海外研修の一環で、JANG HYUNJU氏はじめ番組制作に係る技術職員6名の調査団が本学を訪問した。11日午前は、幕張本部に到着した調査団に対し、隈部正博副学長より、事前にKNOUが希望した質問事項に沿って、放送大学の授業や番組概要などの詳細な説明を行った。また、オンライン授業科目のスタジオ及びテレビ授業科目のスタジオや関連設備、演奏所の見学を行った。調査団はKNOUで番組制作に携わっていることから、見学の際には質疑応答が活発に行われる場面もあった。

昼食の時間には岩永雅也学長も参加し、両大学の取組について情報交換を行った。調査団は、午後は千葉学習センターを

在外邦人等への教育サービスの提供を検討

近年のインターネットの普及や技術の発展に伴いインターネットを活用した受講形態が広まり、さらにはインターネットを活用した単位認定試験を導入したことにより、日本国外からも本学のコンテンツを受講できる環境が整いつつある。そのため、本学として創設以来約40年間に渡り築き上げてきた質の高い遠隔教育・生涯学習の強みを活かして、在外邦人への教育

また、総会では、2023年1月から2025年12月までの次期AAOU会長および理事を選出するための選挙が行われ、放送大学学長は引き続きAAOU理事を務めることが決定した。

訪れ、講義室や実験室などの施設を見学した。続けて東京文京学習センターを訪れ、施設や面接授業を見学した。さらに、調査団は15日に北海道学習センターを訪れ、施設を見学した。今回の来訪により両大学がさらに友好を深め、今後の実質的な交流に結び付くことが期待される。



サービス提供の検討を開始した。本学の海外展開に際し、在外邦人等がどのような学びに関心を持ち、放送大学の授業がどのような形式であれば受講したいと考えられるのか等の調査を開始した。また、実際に海外展開する際の、実務的及び技術的な課題等の抽出を行うため、在外邦人向けのモニター調査を実施する予定である。

本学との協力交流協定を締結している海外の大学（2023年3月時点）

機関名	国・地域	締結年月日
Royal University of Bhutan ブータン王立大学	ブータン	2017/8/18
Universidade Federal de Mato Grosso (UFMT) マトグロッソ連邦大学	ブラジル	2018/9/28
Athabasca University アサバスカ大学	カナダ	1992/9/19
The Open University of China 国家開放大学	中国	2009/5/7
Korea National Open University 韓国放送通信大学校	韓国	2008/9/22
National University of Mongolia (NUM) モンゴル国立大学	モンゴル	2019/10/15
Universitat Oberta de Catalunya カタルーニャ公開大学	スペイン	2014/8/1
National Open University 国立空中大学	台湾	1993/4/16
Sukhothai Thammathirat Open University (STOU) スコータイ・タマティラート公開大学	タイ	2012/5/15
The Open University オープン・ユニバーシティ	英国	2008/8/26
University of Maryland Global Campus メリーランド大学グローバルキャンパス校	米国	2009/11/15

教員による社会貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。

日本学術会議

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという考えのもと、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、政府から独立した「特別の機関」として1949年に設立された。

職務は、①科学に関する重要事項を審議しその実現を図ること、及び②科学に関する研究の連絡を図りその能率を向上させることである。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約87万人を内外に代表する機関で、210人の会員と約2,000人の連携会員によって職務が担われている。

本学の教員は、多岐にわたる社会貢献活動を行っており、その中から活動の一部を紹介する。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。（日本学術会議ホームページより抜粋）

本学の教員は、下表の会員加入状況が示すように連携会員に選ばれ活動に貢献している

日本学術会議での会員（連携会員）加入状況			
所 属	氏 名	職 名	専門分野
東京文京SC	林 徹	所長	言語・文学
大阪SC	金水 敏	所長	言語・文学

学会、国、地方自治体等での活動

本学教員は、それぞれの専門性を生かし、学識者として社会において幅広く活躍している。

活躍の場は学会のみならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

学会、国、地方公共団体等での活動			
所属	氏名	職 名／役 職	所 属
生活と福祉	井出 訓	社会福祉法人 桜秀会／理事	川原 靖弘
		北海道認知症グループホーム協会／外部理事	
		日本老年看護学会／評議員	
		日本老年社会科学会／評議員	
		日本老年看護学会／査読委員	
		日本老年看護学会／評議員	
		日本老年社会科学会／評議委員	
		日本老年社会科学会／査読委員	
		日本認知症ケア学会／評議員	
		日本老年看護学会／第14回学術集会大会長	
大曽根 寛		日本社会保障法学会／理事	下夷 美幸
		日本社会保障法学会／監事	
		愛知県社会福祉協議会／日常生活自立支援事業契約締結審査会委員長	
		名古屋社会福祉協議会／障害者・高齢者権利擁護センター事業運営委員会委員長	
		あいち福祉オブズマン委員会／委員	
		電子情報通信学会行動と認知時限研究専門委員会／副委員長	関根 紀子
		人間情報学会／理事・編集委員	
		一般財団法人未踏医科学研究財団／理事	
		日本家族社会学会／理事	
		日本体力医学会／渉外委員	
		日本体力医学会／評議員	
		文部科学省／体力・運動能力調査に関する検討委員会	

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属	氏 名	職 名／役 職	所 属	氏 名	職 名／役 職
田城 孝雄		豊島区在宅医療推進会議／会長			科学技術振興機構 社会技術研究開発センター、「科学と社会」推進部「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」／プログラム総括補佐
		厚生労働省医政局 在宅医療普及啓発推進支援事業企画書等評価委員会／委員			土木学会原子力土木委員会
		厚生労働省医政局 在宅医療普及啓発企画委員会／委員			リスクコミュニケーション小委員会／委員長
		文京区在宅医療推進協議会／会長			名古屋大学／客員教授
		文京区地域医療連携推進協議会／副会長			内閣官房 内閣サイバーセキュリティセンターサイバーセキュリティ戦略本部 研究開発戦略専門調査会／委員
		厚生労働省医政局 地域医療再生計画に係る有識者会議／委員			土木学会原子力土木委員会／委員
		内閣官房 地域活性化統合本部健康・医療のまちなかづくりに関する有識者・実務者会合／座長			日本リスクマネジメント学会／理事
		内閣官房 構造改革特別区域推進本部 評価・調査委員会 医療・福祉・労働部会／専門委員			株式会社ベイエフエム番組審議会／委員
		内閣官房 地域活性化統合本部 地方の元気応援人材ネットワーク			社会・経済システム学会／理事
		国立長寿医療センター 在宅医療推進会議作業部会(医療連携) 部／会長		山内 豊明	東京都新型コロナウイルス感染症医療アドバイザー
戸ヶ里 泰典		板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会／委員			日本看護学教育学会／理事
		足立区糖尿病対策協議会／委員(アドバイザー)			日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会／委員
		世田谷区地域保健福祉審議会 高齢者福祉・介護保険部会／委員			厚生労働省 医道審議会／委員
		東京都保健医療計画推進協議会改定部会／専門委員			日本臨床看護マネジメント学会／理事
		日本エイズ学会／代議員			日本看護管理学会／評議員
		日本健康教育学会／編集委員長			日本看護科学学会／評議員
		日本社会医学会／評議員			日本学術振興会／専門委員
		日本保健医療社会学会／理事			日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業専門分析班／委員
		日本健康教育学会／理事			日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業総合評価部会／委員
		日本健康教育学会／代議員			日本看護医療学会／理事
奈良 由美子		日本創傷・オストミー失禁管理学会査読／委員		山田 知子	文部科学省 科学技術・政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター／専門調査員
		日本健康教育学会誌／編集委員			日本医療マネジメント学会／理事
		日本原子力研究開発機構 経営顧問会議／委員			コープみらい／理事(学識経験者)
		東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボード／構成員			社会福祉法人サンフレンズ／社会福祉法人理事、評議員
		科学技術振興機構 国際科学技術協力基盤整備事業 日本－米国研究交流「SDGsや仙台防災枠組の優先行動に即し、人間中心のデータを活用したレジリエンス」領域 研究推進委員			日本社会福祉学会／日本社会福祉学会関東ブロック運営委員
		株式会社NTTデータ AIアドバイザーボード／委員			日本社会福祉学会関東ブロック研究大会／実行委員
		文部科学省 実社会課題に対応するコミュニケーションの推進事業評価会議／委員			杉並区共同募金配分委員会／委員長
		内閣官房 サイバーセキュリティ戦略本部 重要インフラ専門調査会／委員			社会福祉法人恩賜財団済生会中央治験審査委員会／委員
		内閣府「防災スペシャリスト養成」企画検討会／委員		吉村 悦郎	一般財団法人発電設備技術検査協会／環境システム評価委員会委員
		内閣官房 新型インフルエンザ等対策推進会議／委員			日本分析化学会・分析化学実技シリーズ編集委員会／委員
		環境省中央環境審議会／臨時委員			文部科学省教育関係共同利用拠点制度審査委員会／委員
		東京iCDC(東京感染症対策センター)専門家ボード			
		リスクコミュニケーションチーム／チーム長			
		東京iCDC(東京感染症対策センター)運営委員会／委員			
		厚生労働省新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部事務局／参与			
		環境省 エコチル調査に係る「地域の子育て世代との対話」業務検討会／委員			

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	職 名／役 職	所 属 氏 名	職 名／役 職	
心理と教育 岩崎 久美子	日本生涯教育学会／理事	丸山 広人	石岡市教育委員会／いじめ問題調査委員会委員 茨城県公認心理師協会／理事	
	フランス教育学会／理事・紀要編集委員長		向田 久美子	日本パーソナリティ心理学会／学会賞選考委員会委員長 日本パーソナリティ心理学会／常任理事 公益社団法人日本心理学会／専門別代議員(第2部門)
	内閣府 構造改革特別区域推進本部評価・調査委員会／委員	森 津太子		日本パーソナリティ心理学会／常任理事 日本心理学会／地域別代議員
	文部科学省 国際バカロレアの普及促進に向けた検討に係る有識者会議／座長			社会と産業
	文部科学省 幼児教育の質に関する家庭や地域への理解啓発に関する調査研究 委員会／委員	児玉 晴男	一般社団法人 企業法学会／理事長 一般社団法人 企業法学会 理事	
	文部科学省国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 社会教育主事講習の充実に資する学習コンテンツ等の開発に関する調査研究委員 委員会／委員	齋藤 正章	中小企業診断協会／中小企業診断士出題委員	
	千葉県千葉市 新基本計画審議会／委員	白鳥 潤一郎	外務省／外交記録公開推進委員会常任委員 日本国際問題研究所／国際政治史研究会委員 日本国際政治学会／書評小委員会委員	
	神奈川県川崎市 政策評価審査委員会／委員	原 武史	講談社本田靖春ノンフィクション賞選考委員 一般財団法人日中文化交流協会／理事 一般財団法人日中文化交流協会／常任委員	
	千葉県千葉市教育委員会 第14期生涯学習審議会／委員		原田 順子	横浜市／横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会 人材育成学会／選挙管理委員会 三菱UFJリサーチ&コンサルティング／令和4年度特許庁産業財産権制度問題調査研究「イノベーションの事業化促進において知財人材に求められるスキルに関する調査研究委員会」
	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会／専門委員	松井 美樹		The Association of Supply Chain and Operations Management／Vice President, Academic Division Committee ベトナム国家大学／Associate Editor, VNU Journal of Economics and Business オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会／オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌エリア編集委員
	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会／専門委員			オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会／第14回オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会全国研究発表大会実行委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会／第6回P&OM 世界大会運営委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会／組織委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会／国際委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会／監査人 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会／前会長
	独立行政法人青少年教育振興機構／評価委員			
	公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団／理事			
岩永 雅也	一般社団法人 社会調査協会／理事長 文科省・特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議／座長			
苑 復傑	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化センター／客員研究員			
	東アジア共同体評議会／東アジア共同体評議会 有識者議員			
倉光 修	日本臨床心理士会／理事			
	日本遊戯療法学会／理事			
小林 真理子	日本臨床心理士会／代議員			
	日本遊戯療法学会／理事			
	NPO法人 Hope Tree(がんになった親を持つ子どもへの支援プロジェクトチーム)／理事			
	栃木県宇都宮市教育委員会／学校支援アドバイザー			
櫻井 直輝	府中市学校適正規模・適正配置検討協議会／委員			
	日本教育経営学会紀要編集委員会／編集幹事			
進藤 聡彦	北杜市／社会教育委員			
	甲府市／社会福祉審議会委員			
	甲斐市／いじめ防止連携協議会議長			
	山梨県／社会教育委員(同会議副議長・編集委員)			
	山梨県／教員のキャリアアップ研修審議会委員会委員長			
橋本 鉦市	日本高等教育学会／理事			
橋本 朋広	日本ロールシャッハ学会／理事			
波田野 茂幸	立川市教育委員会／立川市就学支援等検討委員会委員			

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	職 名／役 職	所 属 氏 名	職 名／役 職		
松原 隆一郎	東京都広告物審議会／委員	情報 青木 久美子	公益社団法人日本理容美容教育センター／ e-Learningのあり方検討会委員		
	内閣府レジリエンス懇談会／委員		GUIDE Association／GUIDE Association Coordinator for the Asian region		
	杉並芸術会館／運営評価委員会座長		Turkish Online Journal of Educational Technology／Advisory Board Member of the Turkish Online Journal of Educational Technology		
	毎日新聞／書評委員		6th International Conference on Education and E-Learning (ICEEL 2022)／ Senior Technical Advisor		
柳原 正治	九州国際法学会／理事長	浅井 紀久夫	日本学術振興会／科学研究費委員会専門委員		
	日本国際法協会／研究企画委員会主任		Asian Journal of Distance Education／ Editorial Team		
	President, Japanese Society of International Law		International Journal of Virtual and Personal Learning Environments／Associate Editors		
	President, Kyushu International Law Association		大西 仁		
山岡 龍一	Japanese Society of International Law／Secretary	大西 仁	電子情報通信学会通信行動工学時限専門 委員会／委員		
	International Law Association, Japan Branch／ member, planning committee		電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究 専門委員会／顧問		
	日本イギリス哲学会／会長		加藤 浩	日本教育工学会／代議員、社員	
	政治思想学会／理事		情報処理学会／情報処理教育委員会		
人間と文化 魚住 孝至	日本イギリス哲学会／理事	加藤 浩	日本科学教育学会／代議員		
	大橋 理枝		情報処理学会／データサイエンス推進委員会		
	実存思想協会／理事・編集委員		情報処理学会／代表会員		
	日本コミュニケーション学会／ 学術局運営委員(学会誌担当)		近藤 智嗣	日本オープンオンライン教育推進協議会／理事	
大橋 理枝	国際行動学会／理事	近藤 智嗣	日本展示学会／理事		
	国際行動学会／年次大会企画担当		ISO/IEC JTC 1/SC24WG09小委員会／ 委員(情報処理学会情報規格調査会)		
	河原 温		公益財団法人 史学会／理事	辰己 丈夫	情報処理学会／広報小委員会 委員長
	大学改革支援・学位授与機構／専門委員		電子情報通信学会／「技術と社会・倫理」 研究会副委員長		
河原 温	都市史学会／常任委員	辰己 丈夫	情報処理学会 教科書委員会／委員		
	比較都市史研究会／編集幹事		情報処理学会 情報処理教育委員会／委員		
	メトロポリタン史学会／委員		情報処理学会 初等中等教育委員会／委員		
	歴史学研究会／会務幹事		情報処理学会／理事		
近藤 成一	歴史科学協議会／代表理事	辰己 丈夫	大学入試センター／入学者選抜における CBT 活用に関するワーキングチーム／委員		
	千葉市芸術文化新人賞選考委員会／委員長		辻 靖彦	情報処理学会／全国大会プログラム編成WG委員	
	須川 英徳		日韓歴史共同研究委員会／ 第二分科会(中世・近世)委員 幹事	Information and Technology in Education and Learning (ITEL)／編集委員	
	杉森 哲也		都市史学会／会長	教育システム情報学会(JSiSE)英文誌編集 委員会／委員	
滝浦 真人	日本語用論学会／会長	辻 靖彦	情報処理学会CLE研究会／運営委員		
	文化審議会／国語分科会 国語課題 小委員会委員		教育システム情報学会関東支部／幹事		
	日本語用論学会／評議員				
	日本語学会／評議員				
野崎 敬	文化庁／芸術選奨推薦委員				
	日本芸術院／日本芸術院会員候補者推薦委員				
	文化庁／第7回JLPP翻訳コンクール審査員				
宮本 徹	中国出土資料学会／副会長				
	日本中国語学会／編集委員				
宮本 陽一郎	筑波アメリカ文学会／会長				

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	職 名／役 職
中川 一史	中央教育審議会初等中等教育分科会／個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会 教科書・教材・ソフトウェアの在り方ワーキンググループ／委員
	中央教育審議会初等中等教育分科会／個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会／委員
	文部科学省／GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議／委員
	文部科学省／デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議／委員
	内閣府／青少年インターネット環境の整備等に関する検討会／座長代理
	教科書研究センター／「デジタル教科書に関する調査研究委員会」委員長
	文化庁／平成30年度「教科書等掲載補償金額の算出方法算定に向けての基礎調査」検討委員会／委員
	文部科学省／平成30年度文部科学省委託「次世代の教育情報化推進事業」高等学校情報科担当教員の指導力向上に関する調査研究検討委員会／主査
	文部科学省／平成30年度文部科学省委託「次世代の教育情報化推進事業」(小学校プログラミング教育の円滑な実施に向けた教育委員会・学校等における取組促進事業)有識者会議／主査
	文部科学省／「デジタル教科書」の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン検討会議／座長代理
	文部科学省／ICTを活用した教育推進自治体応援事業企画評価委員
	文部科学省／ICTを活用した課題解決型教育の推進事業(デジタル教材等の制作・流通の促進に向けた試験研究)企画開発委員会／委員
	文部科学省／ICTを活用した教育の推進に資する実証事業WG委員
	一般社団法人日本教育情報化振興会／一般社団法人日本教育情報化振興会ICT夢コンテスト／審査委員長
	情報処理学会技術士委員会／主査
	情報処理学会／企業認定審査委員
中谷 多哉子	りそな中小企業振興財団／中小企業優秀新技術・新製品賞 専門審査委員
	日本技術者教育認定機構／JABEEソウル協定プログラム対応部会委員
	ソフトウェア技術者協会／幹事
	知能ソフトウェア工学研究会／研究専門委員会委員
広瀬 洋子	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会／監事
	NPO法人 First Step(ひきこもり支援)／理事
伏見 清香	日本デザイン学会／理事
	愛知県児童総合センター／「2021汗かくメディア」選考委員
森本容介	電子情報通信学会教育工学研究専門委員会／専門委員
	電子情報通信学会／特集号編集委員
	教育システム情報学会研究会委員会／幹事
	ICOIE 2022 Programme Committee／Member

所 属 氏 名	職 名／役 職
自然と環境 大森 聡一	人事院 2023年度国家公務員採用総合職試験／試験専門委員
	加藤 和弘 千代田区／ちよだ生物多様性大賞選定委員会／副座長
	千代田区生物多様性推進会議／副座長
	一般社団法人 環境情報科学センター／理事
岸根 順一郎	文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター／専門調査員
	理化学研究所仁科加速器科学研究センター／課題採択委員会委員
	Journal of Physical Society of Japan／編集委員
	固体物理／編集委員
安池 智一	東京大学物性研究所／共同利用施設専門委員会委員
	分子科学会／顕彰委員(ポスター賞担当)
公認心理師教育推進室 桑原 知子	日本箱庭療法学会／理事長
	日本ユング心理学会／副理事長
	日本心理臨床学会／代議
青森SC 浅野 清	大学コンソーシアム学都ひろさき／役員(監事)
秋田SC 倉林 徹	IEEE／member
	日本分光学会／代議員
福島SC 千葉 悦子	郡山市勤労青少年ホーム運営委員会委員
	福島県人事委員会委員
	福島県男女共生センター館長
群馬SC 工藤 貴子	ケイ素化学協会/ 理事
	JST 世界で活躍できる研究者育成プログラム開発総合支援事業 開発普及委員会/ 委員
	JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム委員会 /委員
	JST 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業委員会 /委員
東京文京SC 林 徹	日本学術会議／連携会員
	日本言語学会／大会運営委員
	日本言語学会／委員
神奈川SC 大谷 英雄	川崎市コンビナート安全対策委員会／委員長
	総務省消防庁／消防防災科学技術研究推進評価委員
	危険物等事故防止対策情報連絡会／主査
	神奈川県／神奈川県石油コンビナート等防災対策検討会委員
石川SC 千木 昌人	優良消防用設備等審査会／委員
	経済産業省／産業構造審議会委員
千木 昌人	大学コンソーシアム石川／理事
	石川化学教育研究会／会長
	小松市環境審議会／委員

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	職 名／役 職
岐阜SC 野々村 修一	Grand RE2022国際会議組織委員
	一般財団法人 国際クラブ／国際クラブ／理事
	岐阜県／「脱炭素社会ぎふ」推進協議会／座長
	岐阜県／気候変動適応センター／センター長
	岐阜県／地球温暖化対策実行計画懇談会／会長
	岐阜県／新エネ・省エネ推進会議／会長
	岐阜県／「清流の国ぎふ」創生総合戦略会議／委員
	岐阜県／令和6年度国民文化祭／実行委員
	岐阜県／太陽光発電設備共同購入事業プロポーザル評価会議／委員
	岐阜市／中心市街地活性化委員会／委員長
三重SC 清水 真	JST／追跡評価専門評価／委員
	有機合成化学協会／評議員
滋賀SC 平井 肇	
	北米スポーツ社会学会(North American Society for the Sociology of Sport)／その他の役職
奈良SC 井上 容子	日本建築学会／夜間景観WG 委員
	日本建築学会／明視評価WG 委員
	日本建築学会／窓・開口部規準改訂WG委員
	東大阪市営建替事業に係る事業者選定委員会／委員
	大阪市屋外広告物審議会／会長
	日本建築学会／色彩設計法小委員会 委員
	奈良県大規模小売店舗立地審議会／委員
	一般社団法人奈良県建築士会 専攻建築士審査委員会／評議員
	奈良県廃棄物処理施設設置検討委員会／委員
	日本建築学会／視環境設計小委員会 委員
	日本建築学会／司法支援建築会議 会員
	寝屋川市景観審議会／委員
	守口市建築審査会／委員
	レーザー学会／光感性専門委員会 委員
高知SC 深見 公雄	堺市中高層建築物等紛争調停委員会／委員
	海洋深層水利用学会／理事, 産公学連携推進委員会委員長
深見 公雄	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構／大学機関別認証評価委員会専門委員
	国交省四国地方整備局／河川・溪流環境アドバイザー

所 属 氏 名	職 名／役 職
長崎SC 山下 敬彦	電気学会／理事・九州支部長
	電気学会／代議員
	長崎市／長崎市産業技術審査委員会委員
	長崎県／長崎県研究事業評価委員会委員長
	電気学会／論文委員会(A3グループ)委員
	電気・情報関係学会九州支部連合大会／委員長
	照明学会／代議員
	九州パワーアカデミー／教育部会委員
	照明学会九州支部／幹事
	電気学会／令和2・3年度学会活動推進委員(九州支部)
鹿児島SC 高津 孝	九州環境エネルギー産業推進機構／情報・交流部会幹事
	D-FLAG施設運営委員会委員
高津 孝	
	九州中国学会／理事

社会貢献活動

所 属 氏 名	社会貢献活動内容
生活と福祉 戸ヶ里 泰典	順天堂大学大学院看護医療学研究科「応用統計学」講義
	東海大学医療技術短期大学 教員研究支援
	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 高齢社会看護システム管理学 大学院「高齢社会看護システム管理学特論Ⅰ」講義
	沖縄県立看護大学 大学院「ヘルスプロモーション・健康教育Ⅱ」講義
	山梨県立大学 大学院「基礎看護学Ⅲ」講義
奈良 由美子	NPO法人ACOBА コロナ禍を健康に生きるために～健康生成論とストレス対処の考え方 令和3年度まほろばセミナー 人生100年時代の心の健康づくり第8弾
	東京医科歯科大学教養部「スポーツ・健康科学」講義「健康生成論」担当
	大阪大学基礎工学研究科 講師「科学技術論」
山田 知子	全国大学生協共済生活協同組合連合会「大学生の生活リスク講座」プロジェクト
	社会福祉法人恩賜財団済生会 中央治験審査委員会委員
	杉並区社会福祉協議会 杉並区共同募金配分委員会委員長
心理と教育 苑 復傑	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化センター 客員研究員
	小林 真理子 家庭裁判所調査官養成課程合同研修、年1回・半日「描画法－描画の臨床的適用・SHTP法を中心に－」
	櫻井 直輝 全日本教職員組合事務職員部 2022年(第31回)全国学校事務研究集会第3分科会研究分担者
	高橋 秀明 東京家政大学大学院人間生活総合研究科 非常勤講師
	橋本 朋広 沖縄県精神科病院協会公認心理師部会 ロールシャッハ研修会
社会と産業 児玉 晴男	東京都大田区 サブスクリプション～所有から利用へ、変わる消費のかたち～ おおた区民大学『放送大学提携講座』「コロナ後の経済と生活の変化」
	国士舘大学大学院 総合知的財産法学研究科非常勤講師
	国士舘大学法学部非常勤講師
	和光大学経営経済学部非常勤講師
	原 武史 日中文化交流協会常任委員 朝日新聞土曜版be連載「歴史のダイヤグラム」 日経Think! エキスパート
松井 美樹	日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト（企業管理分野）
	松原 隆一郎 国際日本文化研究センター運営会議委員 国土交通省無電柱化推進のあり方検討委員会委員
	李 鳴 慶応義塾大学法科大学院非常勤講師
人間と文化 大橋 理枝	東京大学教養学部非常勤講師
	宮本 徹 中央大学経済学部兼任講師 東京大学東洋文化研究所・班研究「中国古代文献の成立に関する多角的研究」研究協力者 東京女子大学大学院人間科学研究科・現代教養学部非常勤講師

所 属 氏 名	社会貢献活動内容
情報 青木 久美子	TCCHAWAII.org Board of Directors
	Asuka Academy 理事
	秋田県立秋田南高等学校「国際探求」フィールドワーク 助言
秋光 淳生	千葉大学非常勤講師
	東京大学教養学部非常勤講師
浅井 紀久夫	東京都立産業技術高等専門学校 映像工学
大西 仁	朝日大学経営学研究科 博士論文審査
加藤 浩	熊本大学大学院社会文化科学研究科客員教授
	北海道大学数理・データサイエンス 教育研究センター客員教授
辰己 丈夫	東京大学非常勤講師 理学部・工学部・教養学部「情報科教育法Ⅰ」「情報科教育法Ⅱ」
	東京大学非常勤講師 教養学部「情報」
	千葉大学理学部非常勤講師「情報科教育法」
辻 靖彦	日本女子大学人間社会学部教育学科 教育方法・技術(中高)(非常勤講師)
中谷 多哉子	情報処理学会 情報処理学会代表会員
	日本ソフトウェア科学会 日本ソフトウェア科学会代表会員
	日本科学技術連盟 要求工学(要求分析) 演習コース「ソフトウェア工学の基礎」
	日本学術会議 データサイエンス人材育成への取り組み～放送大学の例～ 公開シンポジウム「数理・データサイエンス・AI時代における統計科学の教育及び研究について」
	情報処理学会 大学等におけるデータサイエンス教育の強化と相互連携～大学でのDS専門教育プログラム～ 全国大会
葉田 善章	岡山理科大学 文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認証 と教育コンテンツ開発 FD講演会
	東京都羽村市生涯学習センターゆとろぎ 公開講座「驚くべき携帯電話の進化・・・モバイル通信の歩みと5G」
	神奈川工科大学 情報学部 情報ネットワーク・コミュニケーション学科 非常勤講師「モバイルネットワーク」
広瀬 洋子	一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協議会 監事
	NPO法人 FirstStep :引きこもり支援 理事
森本 容介	東京医科大学兼任准教授
	千葉大学非常勤講師
	数理・データサイエンス・AI教育強化拠点 コンソーシアム 放送大学責任者
	情報処理技術者試験委員・情報処理安全確保支援士試験委員

社会貢献活動

所 属 氏 名	社会貢献活動内容
山田 恒夫	NPO実務能力認定機構理事
	一般社団法人大学ICT推進協議会学術・教育コンテンツ共有流通部会主査／国際連携室長／研究員／大会準備委員会委員
	オープンエデュケーション・ジャパン 監事
	一般社団法人 日本IMS協会理事・運営委員長・日本IMS賞選考委員長
自然と環境 石崎 克也	一般社団法人「オンライン教育産業協会（JOTEA）」理事
	Zentralblatt MATH., Reviewer
	Aequationes Math., Editor
	Mathematical Review, Reviewer
大森 聡一	早稲田大学エクステンションセンター 地球システムを読み解く オープンカレッジ
	加藤 和弘 International Consortium of Landscape and Ecological Engineering Editor
隈部 正博	亀田医療技術専門学校 環境学
	Mathmatical Reviews アメリカ数学会
谷口 義明	国際天文学連合シンポジウム第380回、Cosmic Masers: Proper Motion toward the Next-Generation Large Projeys (2023 March 20 -24. Kagoshima, Japan)
	安池 智一 東京大学 構造化学
公認心理師教育推進室 桑原 知子	立教大学 物理化学応用特論4
	立教大学 特別講義7 「分子システムにおける光機能の物理化学」
	島根心理療法研究会講演
	三重県教育委員会 三重県中堅教諭等資質向上研修
	京都洛北ロータリークラブ 人間関係に生かすカウンセリングのエッセンス
	大津家庭裁判所自庁研修 京都市小学校カウンセリング研修会
障がい学生支援相談室 角田 哲哉	四街道市特別支援教育専門家チーム委員
	千葉県教育委員会開かれた学校づくり委員会(四街道特別支援学校)
	東京情報大学非常勤講師
	国立病院機構下志津病院研究倫理審査委員
北海道SC 山田 義裕	千葉県教育委員会(文部科学省委託事業)「ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方の調査研究」研究推進会議座長
	北海道大学外国語教育センター 北海道大学外国語教育センター非常勤講師
青森SC 浅野 清	青森県ジュニアピアノコンクール実行委員会「第20回青森県ジュニアピアノコンクール」審査員
	青森県高等学校文化連盟「第43回青森県高等学校総合文化祭日本音楽部門」審査員
	放送大学青森学習センター レクチャー・コンサート「ベートーヴェンのピアノ・ソナタと共に」2022年度放送大学青森学習センター公開講演会
	公益社団法人日本一輪車協会「2023全日本一輪車競技大会 舞台演技部門」審査員長

所 属 氏 名	社会貢献活動内容
岩手SC 西崎 滋	岩手県原発放射線影響対策本部放射線影響対策特命チームアドバイザー
	いわて高等教育コンソーシアム運営委員会
	いわて高等教育コンソーシアム理事会
	滝沢市ラジオメディカルセンター放射線監視委員会委員
	岩手三陸連携会議 岩手三陸連携会議 国(資源エネルギー庁)との意見交換(インターネット) 滝沢市 2022年度ラジオメディカルセンター放射線監視委員会
宮城SC 高橋 満	仙台市社会教育委員の会議 委員長
	石川SC 千木 昌人 石川化学教育研究会 石川地区中学高校生徒化学研究発表会
福井SC 小野田 信春	福井大学非常勤講師
	滋賀SC 平井 肇 タイ国チェンマイ・ラジャバット大学日本センター顧問 高校生のスポーツ交流
高知SC 深見 公雄	公立鳥取環境大学 海洋プラスチック汚染について学ぶ ～悪影響の原因とメカニズム、そしてこれからの動き～ 「水域生態学」の1コマ分を講義担当
	公益財団法人「黒潮生物研究所」理事
	Editorial Board Member of the journal of "Hydrobiology", MDPI, Hydrobiology Editorial Office
	Editorial Board Member of the journal of "Animals", MDPI, Animals Editorial Office
長崎SC 山下 敬彦	長崎海洋産業クラスター形成推進協議会
	長崎市 長崎市産業技術審査 産業技術審査会
	長崎県 長崎県研究事業評価 研究事業評価委員会
	電気学会 電気学会九州支部
	九電みらいエナジー 令和4年度潮流発電技術実用化推進事業 令和4年度潮流発電技術実用化推進事業開発検討会
	長崎海洋産業クラスター形成推進協議会 洋上作業員向け安全訓練施設新築設計業務 公募型プロポーザル審査 洋上作業員向け安全訓練施設新築設計業務公募型プロポーザル審査会

学習センター・学生の活動

愛知学習センターの移転・開所式



愛知学習センターは、2022年10月から、長らくお世話になった中京大学名古屋キャンパスから名古屋駅近くのノリタケの森にあるBIZrium名古屋5階に移転した。愛知学習センターは、愛知ビデオセンターとして出発した時から中京大学名古屋キャンパスにあったので、ちょうど30年目に新たな地に移転することとなった。

新しい愛知学習センターは、イオンモールNagoya Noritake Gardenという大型商業施設上階に位置する全国でも類を見ない新しいタイプの学習センターである。名古屋駅から徒歩圏内にあり、愛知県内外からのアクセスがとてよい場所に立地している。

新しい愛知学習センターの移転開所式は2022年9月29日（木）に学生ロビーにて行われた。移転開所式には、本学理事長、学長をはじめ、名古屋大学総長、愛知県教育委員会学習教



育部長、名古屋市教育委員会事務局生涯学習部長、イオンモール株式会社CX創造本部営業統括部愛知事業部長、愛知学習センター学友同窓会長や学生、報道機関など、本学関係者（本学理事長、学長等）20人近くの方々の出席があった。主催者挨拶、学生代表挨拶、来賓による祝辞の後、関係者によるテープカットを行った。開所式終了後には、センター内の内覧と新しい愛知学習センターの今後の運営や活動について関係者の意見交換を行った。

周年記念式典

学習センター及びサテライトスペースでは、設立を記念した周年記念式典が開催されている。

富山学習センター 30周年記念講演会報告



富山学習センターは、1992年に開設されてから2022年に30周年を迎え、これを記念した講演会を右記のプログラムのとおり開催した。第一部では、佐藤信紘先生から、生命体の本質から老いを理解することが大切であり、幸せな老後の生き方につながるという学術的な講話を、第二部では、唐渡広志先生、成瀬喜則先生から、データサイエンスを実社会で活かすための、具体的な取組や実践に関わる講話を頂いた。放送大学学生や一般参加者など86名の方々が熱心に耳を傾け、講話後に活気のある質疑応答も交わされるなど、とても有意義で貴重な時間となった。また、新田八朗 富山県知事（荻布佳子教育長 代読）、齋藤滋 富山大学長、下山勲 富山県立大学長（石黒雄一 事務局長 代読）、岩永雅也 放送大学長から挨拶・祝辞があった。

富山学習センター 開設30周年記念講演会

- 1 日時 令和4年10月10日（月・祝）午後1時30分～4時30分
- 2 場所 アイザック小杉文化ホール ラポール ひびきホール
- 3 内容
 - 第一部 ハッピーエイジング
 - 1 講演Ⅰ 佐藤信紘 順天堂大学名誉教授
「不確実な時代をいかに生きるか
生命のメカニズムから考える」
 - 2 挨拶・祝辞 新田八朗 富山県知事、齋藤滋 富山大学長
下山勲 富山県立大学長、岩永雅也 放送大学長
 - 第二部 データサイエンスを社会・生活に活かす
 - 3 講演Ⅱ 唐渡広志 富山大学教授
「大学における学生及び社会人に対する
データサイエンス教育・研究についての取り組み」
 - 4 講演Ⅲ 成瀬喜則 富山大学教授
「学校におけるICT活用教育の支援と探究的な
学習の促進」



講演Ⅰ 佐藤信紘先生



岩永雅也 放送大学長 挨拶

2022年度 周年一覧

SC/SS	八戸	福島	茨城	東京渋谷	富山	福井	長野	静岡	愛知	姫路	鳥取	山口	長崎
設置年度 （西暦）	平成14 （2002）	平成9 （1997）	平成9 （1997）	平成24 （2012）	平成4 （1992）	平成9 （1997）	昭和62 （1987）	平成4 （1992）	平成4 （1992）	平成14 （2002）	平成9 （1997）	平成9 （1997）	平成4 （1992）
2022年	20周年	25周年	25周年	10周年	30周年	25周年	35周年	30周年	30周年	20周年	25周年	25周年	30周年

入学者の集い・学位記授与式

3月下旬～4月上旬及び9月下旬～10月上旬に各学習センターで開催された。今年度もオンラインで開催する学習センター

もあったが、対面で開催した山形学習センター及び鹿児島学習センターの様子を紹介する。

山形学習センター 2022年度 第1学期 学位記授与式



「2022年度第1学期学位記授与式」を2022年9月25日（日）に山形学習センター講義室において開催した。今回、本センターからは、教養学部13名の皆さんが学位を取得された。当日は、出席された6名の方々に、安田弘法所長から、お一人お一人に学位記が手渡された。

山形学習センターでは、卒業時に特に優秀な学業成績を修められた学生について、顕彰しており、今回は、3つ目のコースを卒業された酒井由美子さんと佐藤章さんが「生涯学習奨励賞」を受賞された。

安田所長の式辞では、卒業生に対し、卒業まで長年にわたりご努力され、学位を取得されたことに、お祝いと労いのお言葉があった。



2022年度 第2学期 入学者の集い

2022年10月2日（日）に山形学習センター講義室において「2022年度第2学期入学者の集い」を開催した。始めに、安田弘法所長から、入学者の皆さんにお祝いのあいさつがあり、その後、ガイダンスとして、センターの利用方法や修学上の注意事項等について、詳細な説明を行った。

最後に、当センターに所属する5つのサークル（ゆうがくの会、英語講談会、パソコン教室、国文学を読む会、書道サークル）の代表者等から、各サークルの紹介と入会のご案内があった。当日は、対面8名、オンライン（Zoom）2名の計10名の出席があった。

鹿児島学習センター 2022年度 第1学期 卒業証書・学位記授与式



2022年9月25日（日）かごしま県民交流センター中ホールにて「2022年度第1学期卒業証書・学位記授与式」を開催した。授与式には、学士（教養）の学位を取得された45名のうち、15名が出席した。高津所長から卒業生一人一人に卒業証書・学位記授与後、教養学部の全コースを卒業し放送大学名誉学生の称号を付与された2名（齊藤國久さん、迫田幸夫さん）を紹介した。続けて、放送大学鹿児島学習センター所長表彰「特別賞」を受賞した7名（教養学部の全てのコースを卒業し放送大学名誉学生となった方、教養学部の4つ目のコースを卒業した方、同じく2つ目のコースを卒業した方等）のうち、2名に表彰状と副賞が授与された。授与後には、放送大学岩永雅也学長からのメッセージの放映及び高津所長から祝辞があり、卒業生代表あいさつ（池増雅さん）については、文書紹介とした。新型コロナウイ

ルス感染症拡大の状況を鑑み、式典は出席者の健康と安全確保の観点から、卒業生と学習センター職員のみで執り行った。なお、「2022年度第2学期入学者の集い」は、Web会議システムZoomを利用して2022年9月24日（土）に開催した。



文化祭

毎年、多くの学習センターで文化祭を開催し、学生の学習成果や学生団体(サークル)活動の成果を発表、披露している。今年

度も文化祭中止があったが、多くの学習センターでは感染防止対策を講じた上で開催した。



宮崎学習センター 学園祭“ひまわりふれあい祭”開催報告

2022年10月9日(日)、「大人から子どもまで楽しめる」をコンセプトに「ひまわりふれあい祭」を開催した。コロナ禍のため3年ぶりの開催となった。

あいにくの雨天だったが、学生と一般の方、延べ200名以上が来場し大盛況であった。密にならない環境での開催を心がけるため、今年は宮崎学習センターと隣接する日向市役所1階市民ホールの2会場で実施した。

■ 宮崎学習センターでのイベント

学習センターの玄関前では、野菜やパン、手作りの雑貨を販売し、開始早々30分で売り切れたものもあった。同じ場所で学生等から集めた物品を売り出したチャリティバザーも開催し、売上金16,150円は財団法人デイリー健康福祉事業団へ寄付を行った。学習センターの2階スペースでは、サークルの学生作品(英語の文庫本、絵画や名刺・ポストカードなど)の展示や税法サークル顧問の土田先生による無料税務相談を行った。加えて、市民の皆様作品(絵葉書や書道など)も展示し、来場者は2階スペースが埋まるほど多くの作品をじっくりと鑑賞していた。



■ 日向市役所市民ホールでのイベント

市内のフラダンス教室に通う子どもたちの実演が行われ、愛らしい姿で踊る子どもたちを見て、ご観覧の方も癒されている様子であった。

また、松下洋一所長が「おもしろ科学実験」を企画し、多くの子どもたちがスライムを作ったり、アルコールや洗剤で「水の上を動くプラスチックのふね」の仕組みを学んだりと化学の楽しさを体験していた。学友同窓会メンバーを中心とした学生にも運営に協力いただき、センターや学生と地域住民の方との交流を深めることができた。

「ブルーベリーを育てよう!」と題して、宮崎大学農学部長・教授の國武久登先生にご講演いただいた。ブルーベリーの植え付けなどの実演を交えながらの講演会は、参加者から先生への質問が途切れないほど大盛況であった。



学生研修旅行

学習センターでは、学習活動の一つとして、研修旅行を年1回程度開催している。研修旅行は、学生・教職員の親睦のよい機会と

もなっている。訪問先は、学術機関、地域の名所・旧跡、体験学習など多彩である。

三重学習センター 学生研修旅行

放送大学三重学習センターでは、2022年11月10日(木)に学生研修旅行～『神宮』について正しく学ぶ～を実施した。2020年度・2021年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため実施を見送ったが、今回、開催規模を縮小して実施することができた。伊勢神宮への参拝は『外宮』からの参拝がならわしたが、今回は『内宮』の参拝だけでの実施とした。参拝するにあたり三重学習センター客員教授の岡田登先生に同行していただき、内宮を案内していただいた。宮内各箇所では、旅行ガイドブック等では掲載されていない貴重なお話をしていただきながら、予定時間(2時間)を延長して3時間で内宮を回りきることができた。岡田先生の熱意ある解説で『神宮』について勉強することができ、参加した学生も満足そうにしていた。



【内宮参拝ルート】(参考:伊勢神宮HP <https://www.isejingu.or.jp/visit/course/naiku.html>)

1.宇治橋 → 2.神苑 → 3.手水舎・御手洗場 → 4.瀧祭神 → 5.忌火屋敷・祓所 → 6.御覽調舎 → 7.正宮 皇大神宮 → 8.御稲御倉 → 9.外幣殿 → 10.別宮 荒祭宮 → 11.御酒殿・由貴御倉 → 12.五丈殿 → 13.四至神 → 14.別宮 風日祈宮 → 15.内宮神楽殿 → 16.御厩 → 17.参集殿 → 18.大山祇神社・子安神社 → 19.宇治橋

公開講演会

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。本学教員に加え、各地域や分野で活躍する多彩な方々を講師にお招きし、本学学生に限ら

ず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、共に考える機会を提供した。

栃木
学習センター

テーマ	「コーディネートの感性工学 ～今日はどんなファッションで?～」
講師	阿山 みよし(宇都宮大学名誉教授)
会場	宇都宮大学陽東キャンパス

2023年1月29日(日)に宇都宮大学名誉教授の阿山先生による講演が開催され、市民を含む、会場39名・オンライン38名が参加した。

『青と白のコーディネートならば清楚な印象。黄色と白なら、明るい印象を感じる人が多い』というのは、本講演で紹介された、服の上下の色の組み合わせによる印象の違いを調べる実験結果の一部だ。実験では5色のカラフルなトップスと、モノトーンのスカート4種を組み合わせ、60通りものコーディネートを用意し、その中でどの組み合わせがより「目立つか、かわいいか、明るいかなどを質問したところ「清楚な印象を受ける組み合わせ」として「青＋白系統」のコーディネートが上位を独占する結果となった。

「とはいえ、21世紀は好きなものを自由に選んで着る時代です。実験結果にあまりこだわり過ぎずに、その日の気分にあったコーディネートを着るのが一番のおすすめです」

受講者たちに少し冗談めいた口調でそう語った阿山みよし先生は、続けて「感性工学とは元々は工場から始まった学問で、人の感覚を分析してものづくりに役立てることを大きな目的としています。例えば今回の実験であれば、清楚・明るいといった主観的な印象を、服の色の明度・鮮やかさといった数値化できる部分から読み解くことで、ネットショッピングで検索をした際にイメージに沿った服がヒットするように精度をあげる技術などに活かされます」と語った。

受講者からは「ファッションが好きなので、大変楽しく学べた」「自分の知らない世界の話を、身近な話題から聞けてとても興味深かった」といった声が寄せられ、感性工学の一端に触れられる有意義な時間となった。

石川
学習センター

テーマ	「ロシアのウクライナ侵攻ー背景と国際的影響」
講師	鹿島 正裕(金沢大学名誉教授・元放送大学石川学習センター所長)
会場	放送大学石川学習センター

2022年5月18日(水)石川学習センターにおいて、第6代石川学習センター所長を務められた鹿島正裕先生による公開講演会が行われた。まだコロナ禍が収束していなかったため、会場への参加人数を20名までに制限し、当日参加できなかった方々への対応として、講演会の様子をビデオ撮影した。講演内容は所属学生からの要望が特に多かった“ロシアのウクライナ侵攻”に関することとした。

2022年2月24日にロシアがウクライナに軍事侵攻し、現在もニュース等でそれらの状況について報道されており、膠着状態が続いている。この軍事侵攻の歴史的背景と国際的影響、さらには今後の行方について、国際政治学が専門の鹿島先生にわかりやすくご講演いただいた。歴史的背景では、ロシア革命までのロシアとウクライナの関係から始まり、その後のソ連時代でのウクライナの状況、さらにソ連崩壊後のウクライナ独立での脱ソ連化などについてお話しされた。また、現在のロシアのプーチン大統領とウクライナのゼレンスキー大統領の政治的手腕や欧米との関係、さらに国連安保理の機能などについてもお話しされた。一方、この軍事侵攻が日本を取り巻く東アジアの安全保障問題にどのような影響を及ぼすのか、先生のご意見も交えて解説いただき、参加者の皆さんは真剣に聞き入っておられた。先生のご講演後、参加者から活発な質問が続き、2時間にわたる講演会はあっという間に終了した。

学生団体(サークル)活動

学生同士の親睦を深め豊かなキャンパスライフを築くため、
本学はサークル活動を支援している。年齢や人生経験が異なる人達との交流が、共通の目的を持って活発に行われた。



千葉
学習センター

Voice of the Circle

【古文書を読む会】

—読めたら嬉しい崩し字—

副会長 吉田 茂樹



「古文書を読む会」は1995年に行われた面接授業「近世文献講読」(講師岩淵令治先生)を受講した13名が中心になって発足しました。継続して崩し字を読む事で読解力を向上するのが目的です。2021年2月には『勤番武士の江戸滞在記』(国枝外右馬江戸詰中日記)を出版し、同年11月に放送大学キャンパスガイドで活動の一端が紹介されました。翌年2月に千葉学習センター公開講演会「豊後臼杵藩士の江戸勤番武士日記をよみとく」が開催されました。

活動の一例としては、元治元(1864)年8月から慶応元(1865)年8月まで江戸に在勤した庄内藩士松平造酒助(久茂)が国元の両親に宛て書き送った日記(「松平造酒助江戸在勤日記」神奈川県立歴史博物館所蔵、以下日記と略す)を解説しています。日記の詳細は神奈川県立歴史博物館ホームページを参照してください。

造酒助は文久三(1863)年に32歳で父松平武右衛門(久徴)から家督を継ぎ翌年正月に組頭となりました。武右衛門家は庄内藩の要職を務めた名門です。日記には江戸へ上る途中の道中や江戸で見聞きた出来事、国元の両親や妻・妹へ伝えるべき事柄が挿絵と共に描かれています。文字は癖の強い難解な崩し字です。苦勞するのが両親には判る省略・方言や語彙です。

日記解説と関連して野外活動(造酒助が歩いた江戸、庄内現地調査、国立歴史民俗博物館見学など)も行いました。





静岡
学習センター

Voice of the Circle

【天文クラブ】

「宇宙の美しさと神秘を体験しませんか」

山田 芳夫



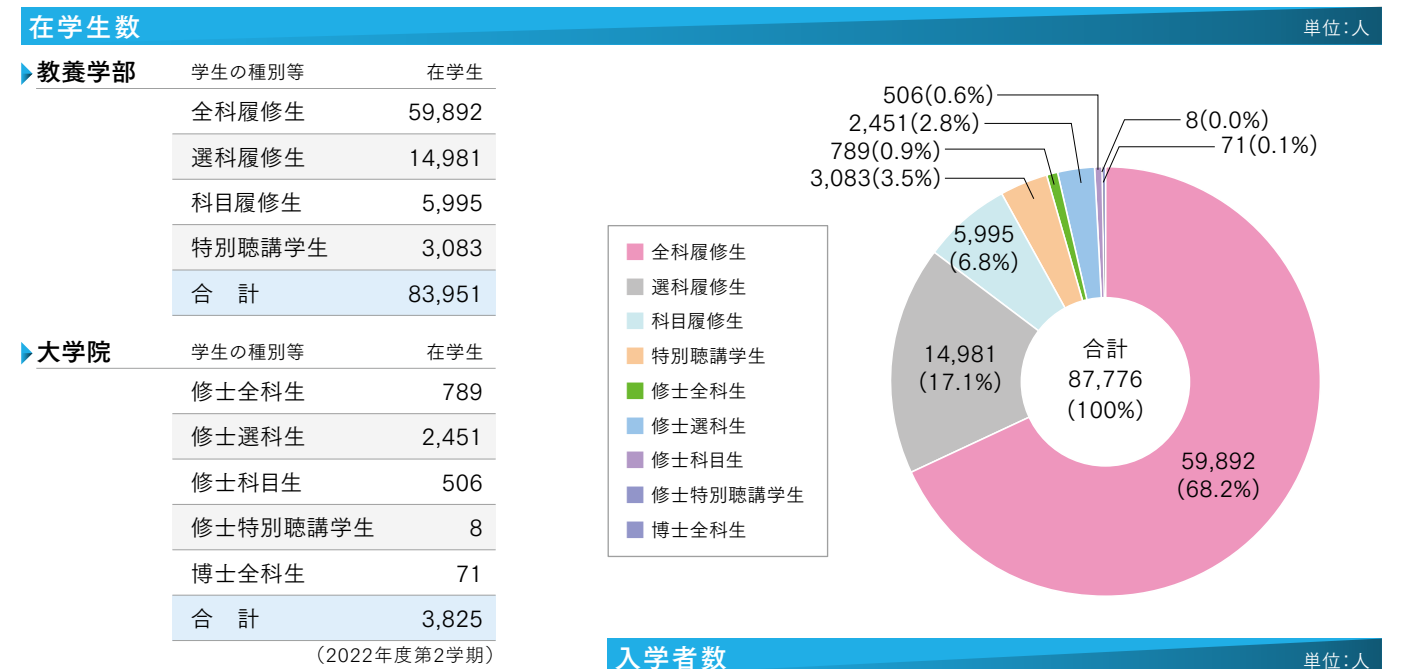
静岡学習センター・天文クラブは2021年10月に発足し、現在メンバー8名の小さなクラブです。富士山を背景とし、宇宙の広大さ神秘性、天文学の面白さを話し合い、さらに体験するために設立されました。月1回の会合には、今月のプラネタリウム、天文基礎知識、太陽観望(黒点やプロミネンス)、何でもクエスチョンなど盛りだくさんです。メンバー有志による夜間活動は、月・惑星・星座の観望、星景写真、電子観望など試みっていますが、天候や月齢、風、光害などの影響により、実施率は3割程度です。それだけに観望や写真撮影が成功すると、喜びはひとしおで貴重な経験となります。

21世紀の天文学は、宇宙望遠鏡、惑星探査、電波干渉計、シミュレーション技術などにより、以前とは比較にならないくらい進歩を遂げエキサイティングの連続です。直径僅か15cmの脳が、直径22万光年のアンドロメダ銀河を感得できることは、宇宙と人間の両立神秘ではないでしょうか。これらの事柄を学問的に解き明かし知的興奮を提供してくれる天文学は、人類にとってエンターテインメントであり現代思想の1つと言えるでしょう。たまには夜空を眺め、宇宙や人類について思いを馳せ、天文学に親しみましょう!



Annual Review 2022

データで見る放送大学



(注) 特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

集中科目履修生		単位: 人
学生の種別等	在学生	
学校図書館司書教諭講習	806	
		(2022年度)

教職員数		単位: 人
役員	5	
副学長(役員を除く)	2	
教員	87	
学習センター所長	50	
事務職員	247	
合計	391	
		(2022年4月1日現在)

単位互換協定締結校数		単位: 校
学校の種別	校 数	
大学院	14	
大 学	318	
短 大	94	
高 専	17	
合 計	443	
		(2023年3月31日現在)

入学者数				単位: 人
▶ 教養学部	学生の種別等	1学期	2学期	合 計
	全科履修生	8,806	4,954	13,760
	選科履修生	9,985	4,909	14,894
	科目履修生	5,053	5,995	11,048
	特別聴講学生	980	3,083	4,063
	合 計	24,824	18,941	43,765
▶ 大学院	学生の種別等	1学期	2学期	合 計
	修士全科生	265	—	265
	修士選科生	1,677	731	2,408
	修士科目生	370	506	876
	修士特別聴講学生	17	8	25
	博士全科生	18	—	18
	合 計	2,347	1,245	3,592
				(2022年度)

学部卒業生数				単位: 人
1学期	2学期	合 計	累 計	
2,291	3,907	6,198	131,225	
				(2022年度)

大学院修士課程修了者数				単位: 人
1学期	2学期	合 計	累 計	
2	256	258	6,926	
				(2022年度)

大学院博士後期課程修了者数				単位: 人
1学期	2学期	合 計	累 計	
—	9	9	45	
				(2022年度)